

計画段階評価に向けた検討

山陰自動車道（^{ふく}福^{みつ}光～^{ごう}江^つ津） 第1回 説明資料

平成24年9月20日

国土交通省 中国地方整備局

目 次

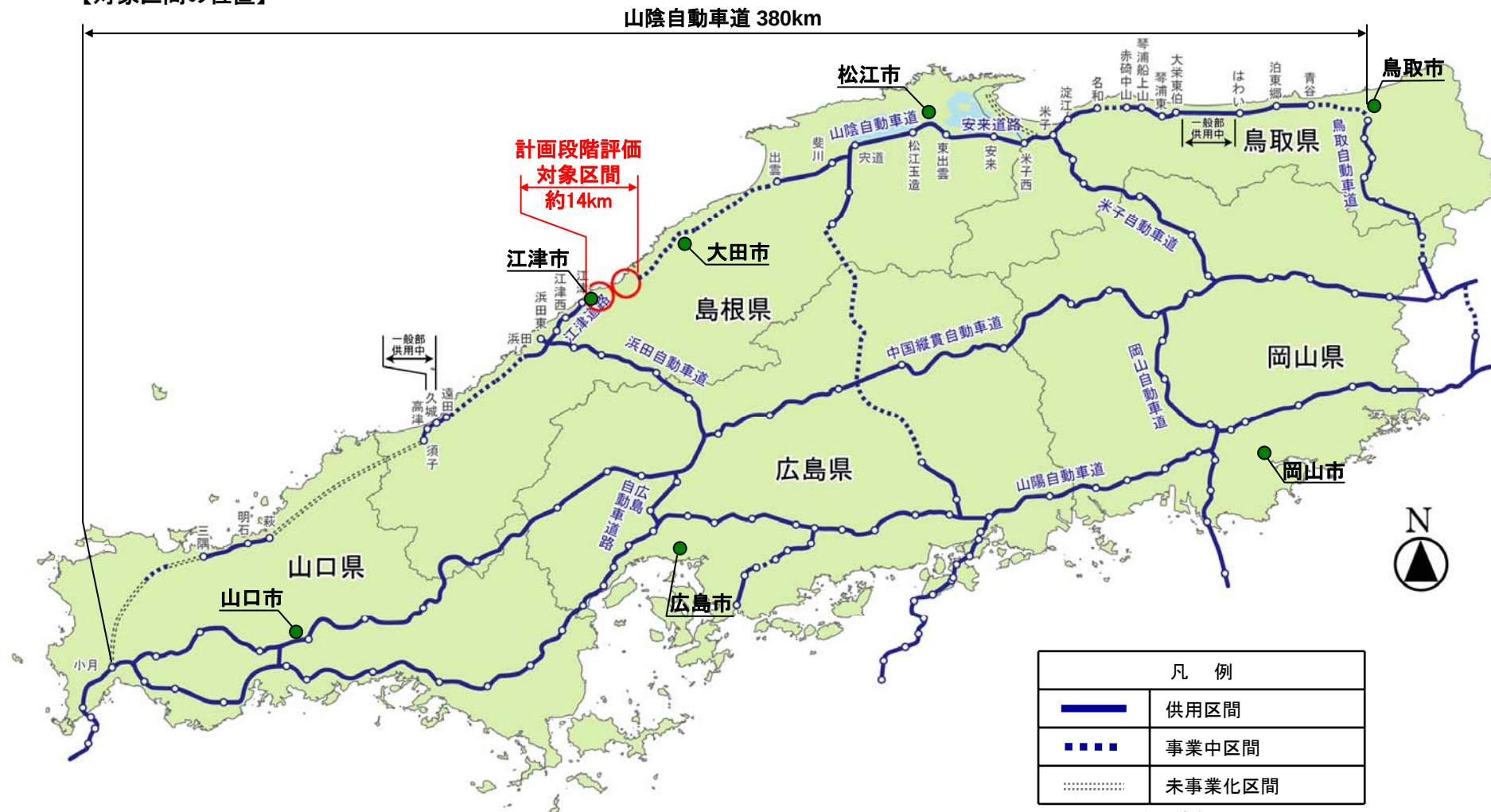
1. 地域の状況と課題	・ ・ ・ 2
2. 道路・交通の状況と課題	・ ・ ・ 14
3. 地域及び道路の現状と課題のまとめ	・ ・ ・ 25
4. 政策目標の設定	・ ・ ・ 27
5. 計画段階評価手続きの進め方	・ ・ ・ 33

1. 地域の状況と課題

1-1. 位置

- 当該区間は、日本海国土軸の一部を担う山陰自動車道の一部。
- 沿線の大田市・江津市は、東西に長い島根県のほぼ中間に位置し、県庁所在地の松江市まで約70km。

【対象区間の位置】



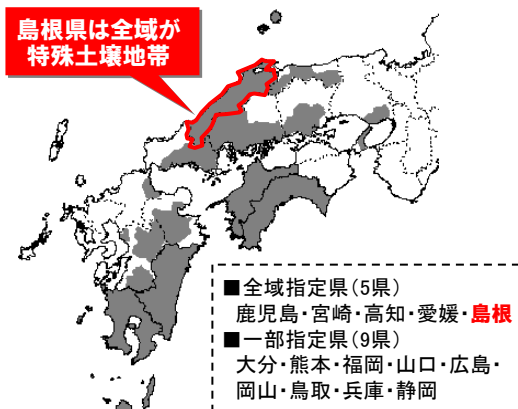
※) H24.4月現在の道路網

1-2. 自然災害の状況

- 島根県は全域が特殊土壌地帯であり、豪雨の際に土砂災害が発生しやすい地質的リスクを抱えており、過去5年間に於ける都道府県別の土砂災害発生件数は全国第2位。
- 昭和47年7月、昭和58年7月の豪雨では、県西部の広範囲で土砂災害が発生し、国道9号が各所で寸断。

■島根県西部地域の自然条件

【特殊土壌地帯の分布】



<特殊土壌地帯の特徴>

- ①特殊土壌(特殊な火山噴出物、花崗岩風化土等、特に侵食を受けやすい土壌)で覆われている。
 - ②台風の来襲頻度が極めて高い。③雨量が極めて多い。
- 等から、災害が発生しやすく、農業生産にも不利な面がある地帯である。

資料:「特殊土壌地帯対策の概要」農林水産省

■過去に大田市・江津市周辺で発生した大規模災害

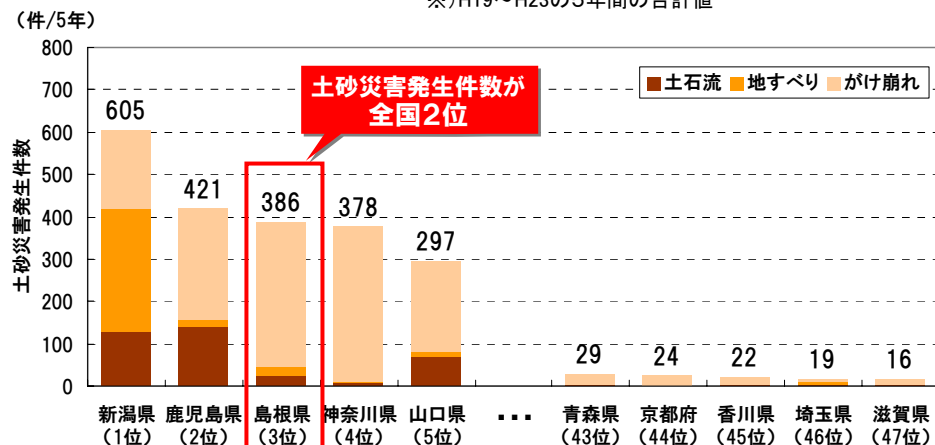
【昭和47年7月豪雨・昭和58年7月豪雨における災害発生状況】



資料:「昭和四十七年七月 豪雨災害誌」、「昭和五十八年七月 豪雨災害誌」建設省中国地方建設局

【都道府県別土砂災害発生件数(上位・下位5都道府県)】

※)H19～H23の5年間の合計値

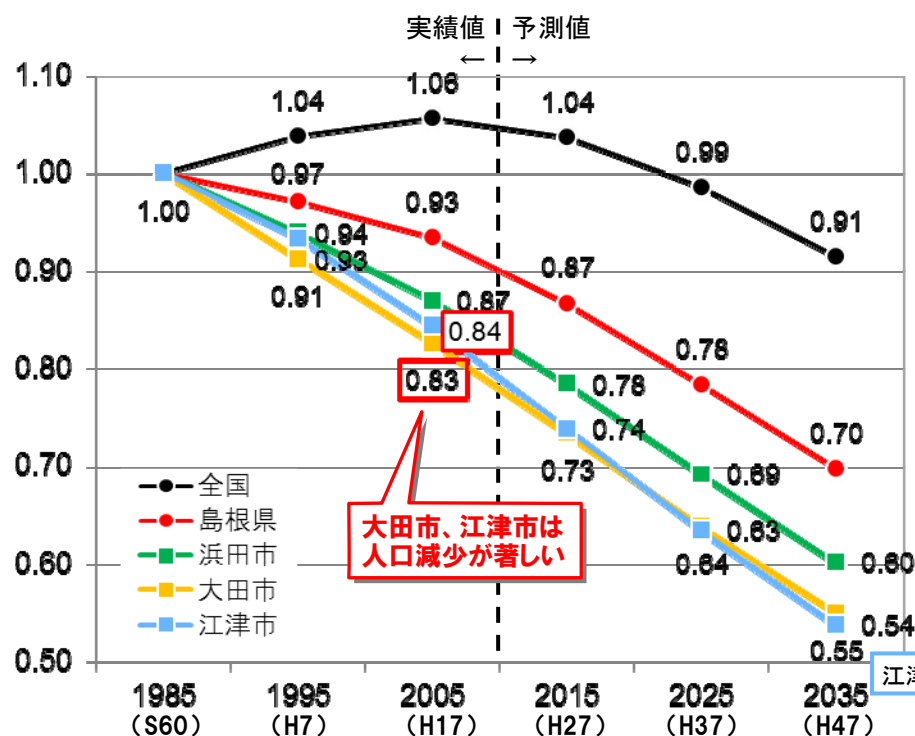


資料:「近年の都道府県別土砂災害発生状況」国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部

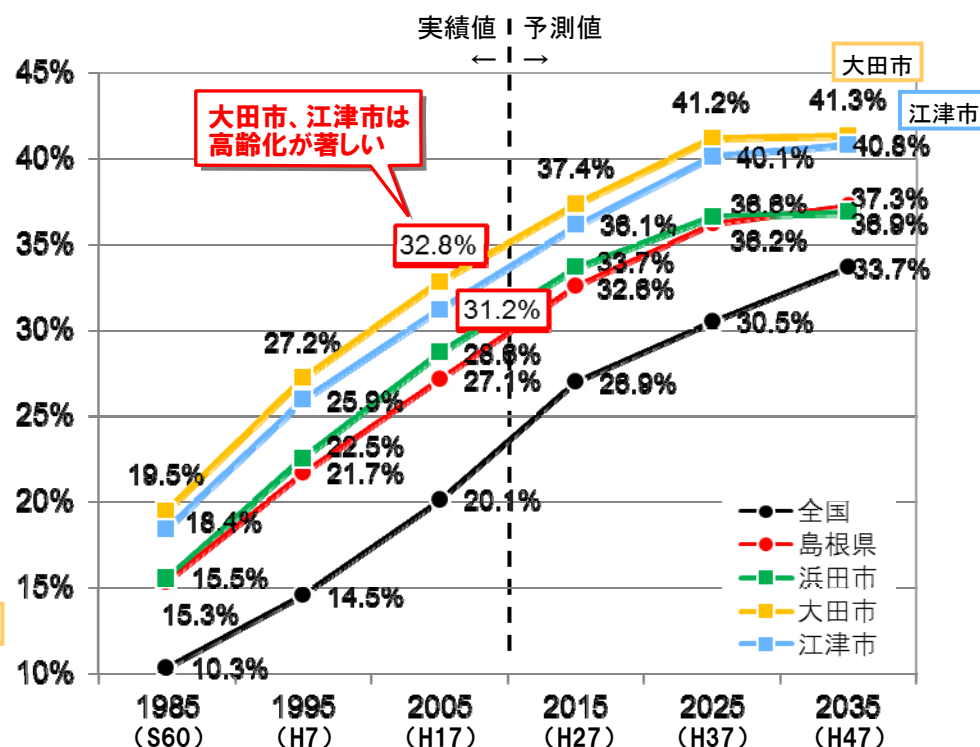
1-3. 人口・高齢化の状況（1）

- 島根県は全国に比べ人口減少・高齢化が進んでおり、特に大田市・江津市は人口減少・高齢化が著しい。

【総人口比率の推移(1985年を1.0とした場合)】



【高齢化率(65歳以上人口割合)の推移】



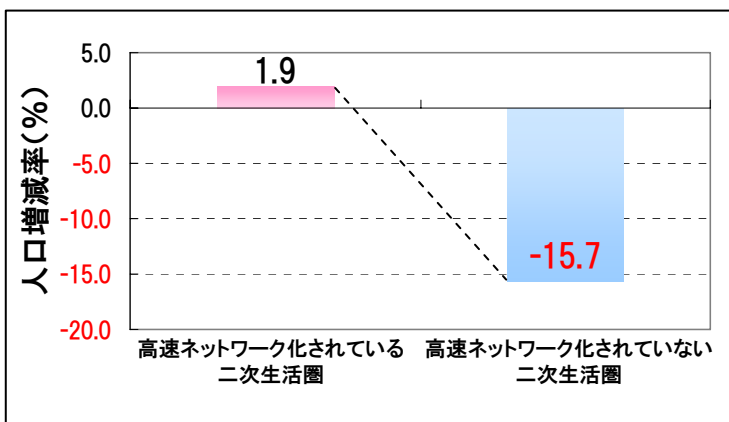
※) 将来推計人口については、出生中位、死亡中位推計の結果に基づく。

資料:【実績値】「国勢調査」総務省、【予測値】「日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)」国立社会保障・人口問題研究所

1-3. 人口・高齢化の状況（2）

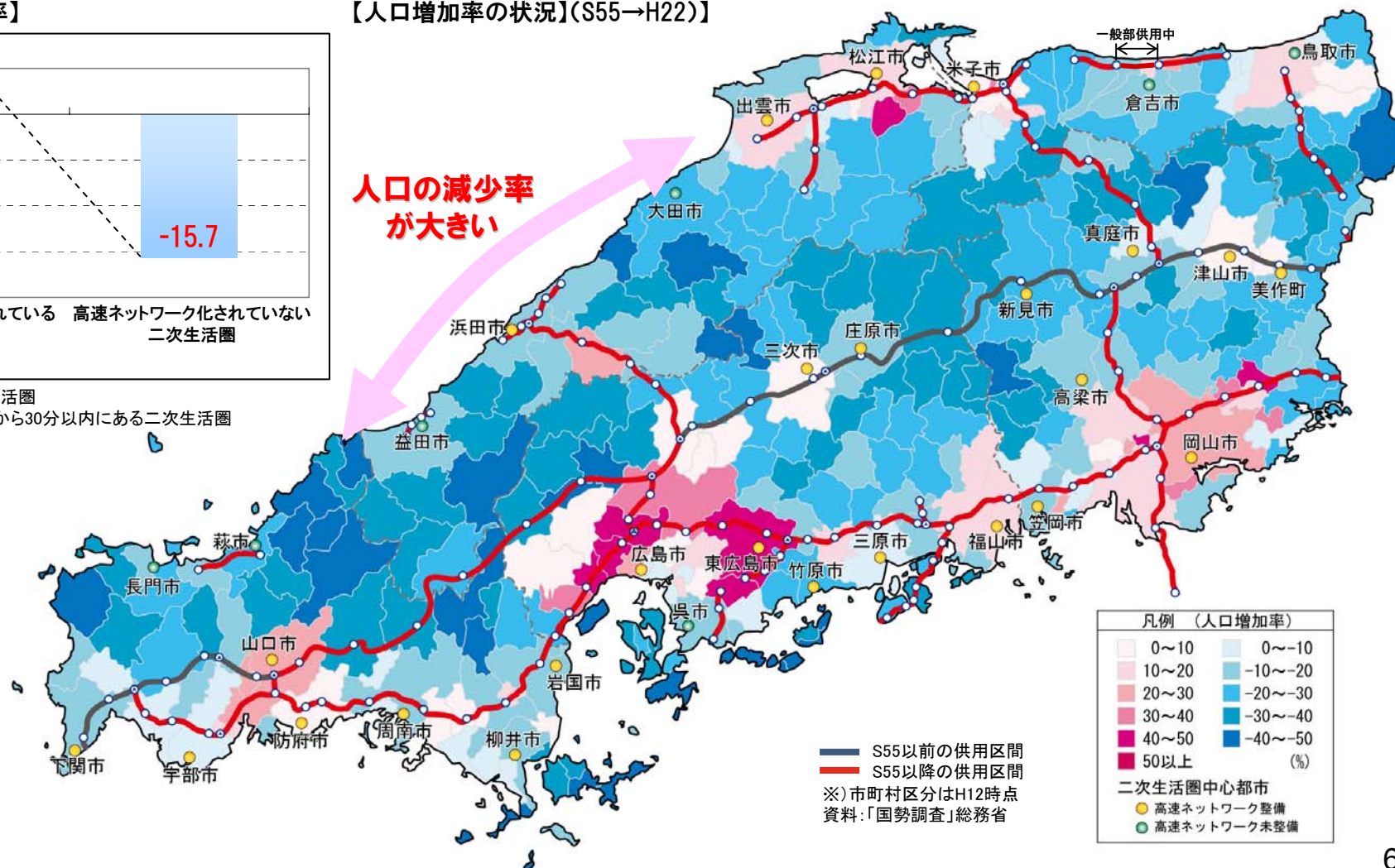
- 中国地方の中でも、山間部と山陰側西部の地域で、人口減少が進んでいる。

【二次生活圏の人口増減率】



※) 高速ネットワーク化された二次生活圏
: 生活中心地が高速道路ICから30分以内にある二次生活圏

【人口増加率の状況】(S55→H22)

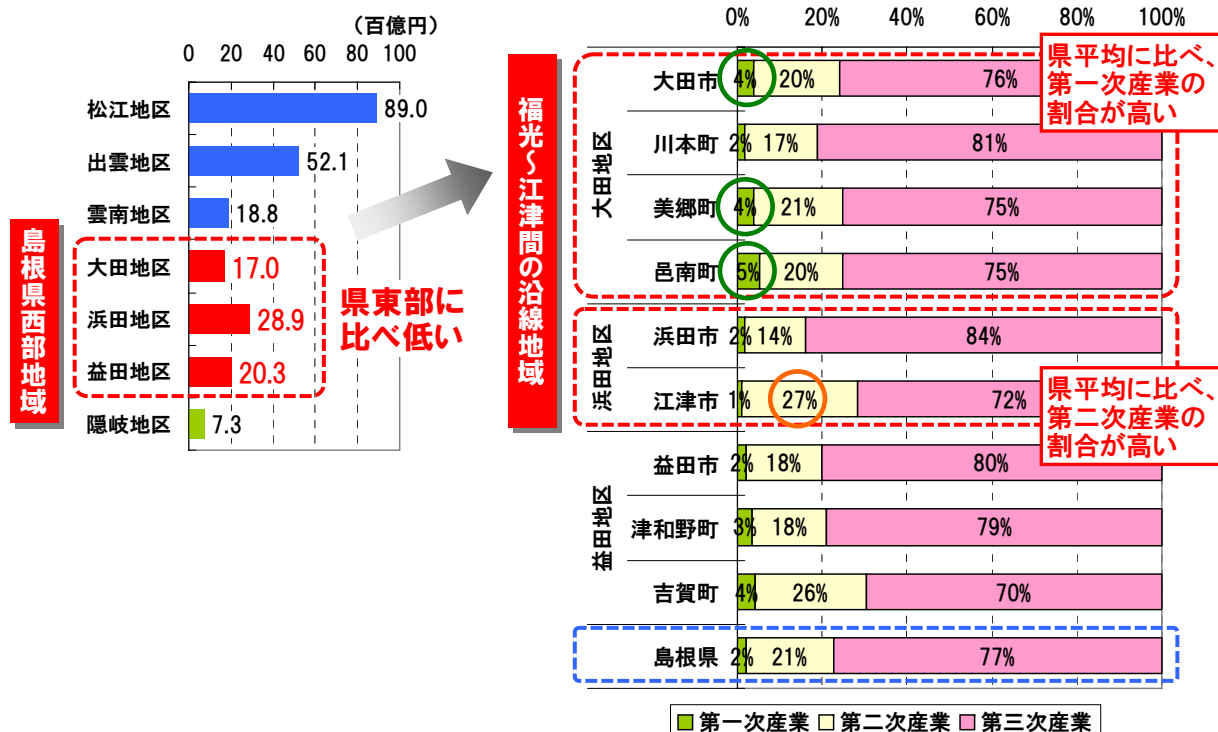


1-4. 地域経済の状況 地域の産業構造

- 島根県内の総生産は全国45位と低い水準。
- 総生産額の構成比から島根県西部(福光～江津間の沿線地域)の産業構造を見ると、大田地区は第一次産業、浜田地区(江津市)は第二次産業の割合が県平均に比べて高い。
- また、産業別の従業者数構成比を全国と比較すると、漁業をはじめとする第一次産業の他、国内有数のシェアを誇る合板材や石州瓦に関する製造業の比率が高く、これらの産業が当該地域の主要産業となっている。

■島根県西部地域の総生産額の構成比

【島根県内の地区別総生産(H21)】 【県西部地域の市町村別・産業3分類別総生産構成比】

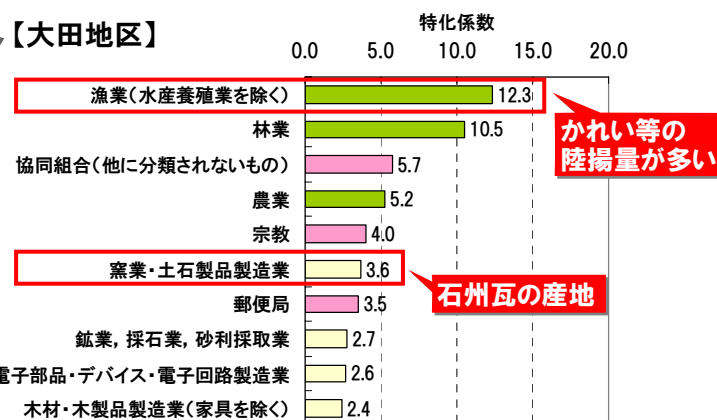


■大田・浜田地区の産業別特化係数

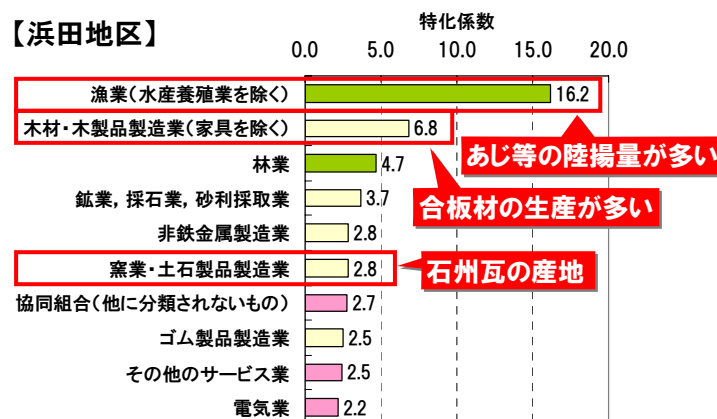
(産業中分類別の従業者数構成比による上位10業種)

特化係数 = (圏域内の産業別従業者数構成比 / 全国の産業別従業者数構成比)

【大田地区】



【浜田地区】



資料:【地区別・市町村別総生産】「平成21年度 島根県市町村経済計算」島根県
【産業別従業者数】「平成21年経済センサス-基礎調査-」経済産業省

1-5. 産業の状況（1）地場産業（合板材）

- 島根県は合板材の主要生産地（中国地方におけるシェア82%）である。当該地域を拠点とするNグループの住宅用合板材は国内シェア約2割を占めている。
- 関西以东への輸送をはじめ、国道9号は合板材を出荷する際の重要なルートとなっている。

■木材品製造業

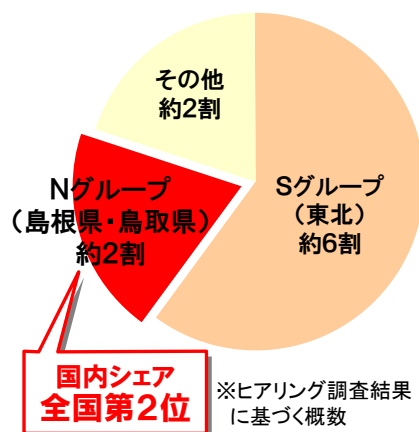
【合板材の概要】

- 薄く切った単板を、繊維方向を90° 互い違いに重ねて熱圧接着した木質ボード。
- 家具や造作材、コンクリートの型枠としての利用のほか、構造用合板として住宅の壁や床に利用されている。

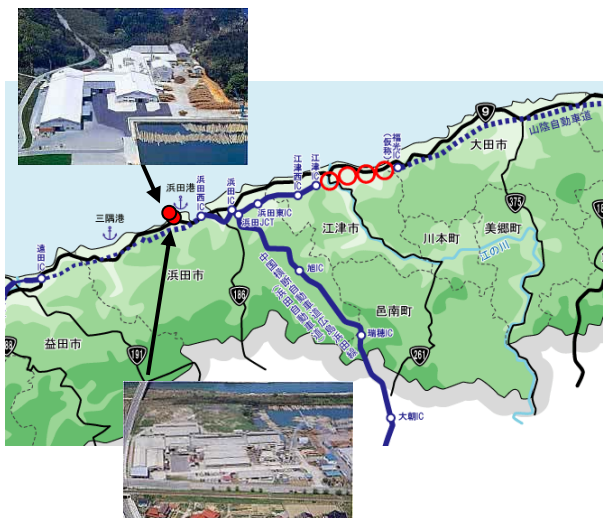


合板材

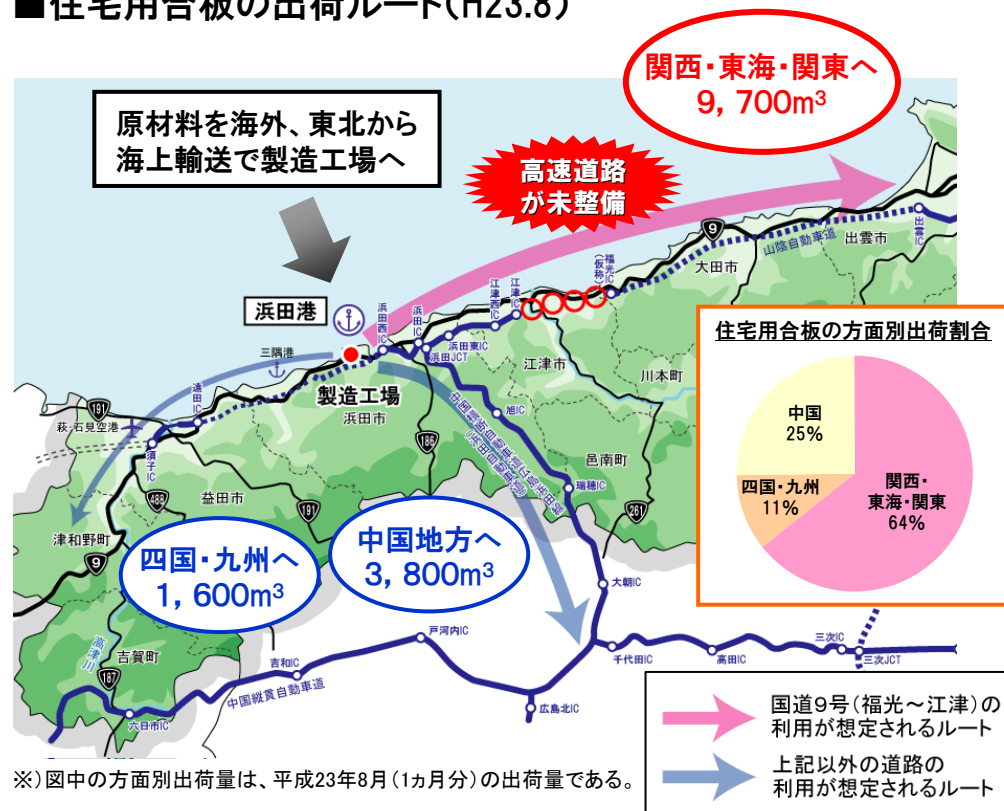
【住宅用合板材の国内シェア※】



【浜田港周辺における木材品の製造拠点】



■住宅用合板の出荷ルート(H23.8)



【島根県内の合板製造企業Nグループの声】

- 関西以东は、国道9号を利用して木材を輸送している。
- 国道9号に代わる迂回路はなく、通行止めの際は東西方向の流通はストップするだろう。

1-5. 産業の状況（2）地場産業（石州瓦）

- 石州瓦は、日本三大瓦のひとつであり、生産量で国内シェアの14%を占める主要な地場産業である。
- 石州瓦は、国道9号を経由して全国に出荷されており、3割程度は江津以東の国道9号を利用している。

■石州瓦

【粘土瓦の特徴】

- 島根県、石見地方で生産される赤褐色の瓦。
- 瓦の全国シェア第2位で、日本三大瓦のひとつ。
- 寒さに強く、表面のガラス質により、防水性が高く塩害にも強い。
- 日本海沿線の寒くて積雪の多い地域に葺かれてきた。



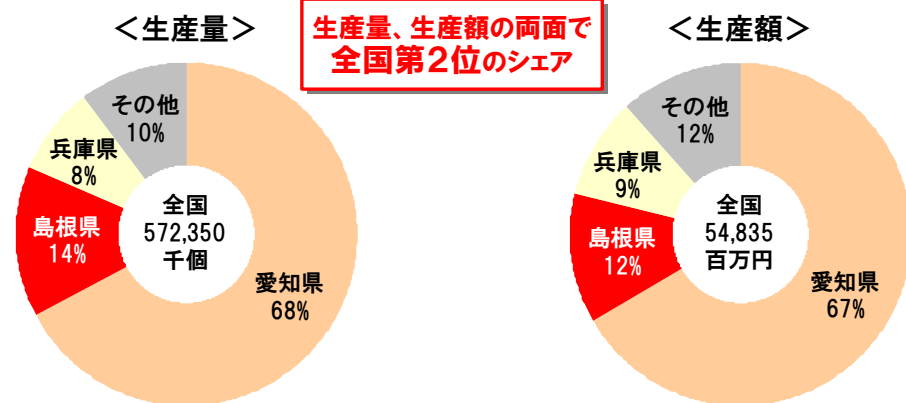
石州瓦の街並み



石州瓦

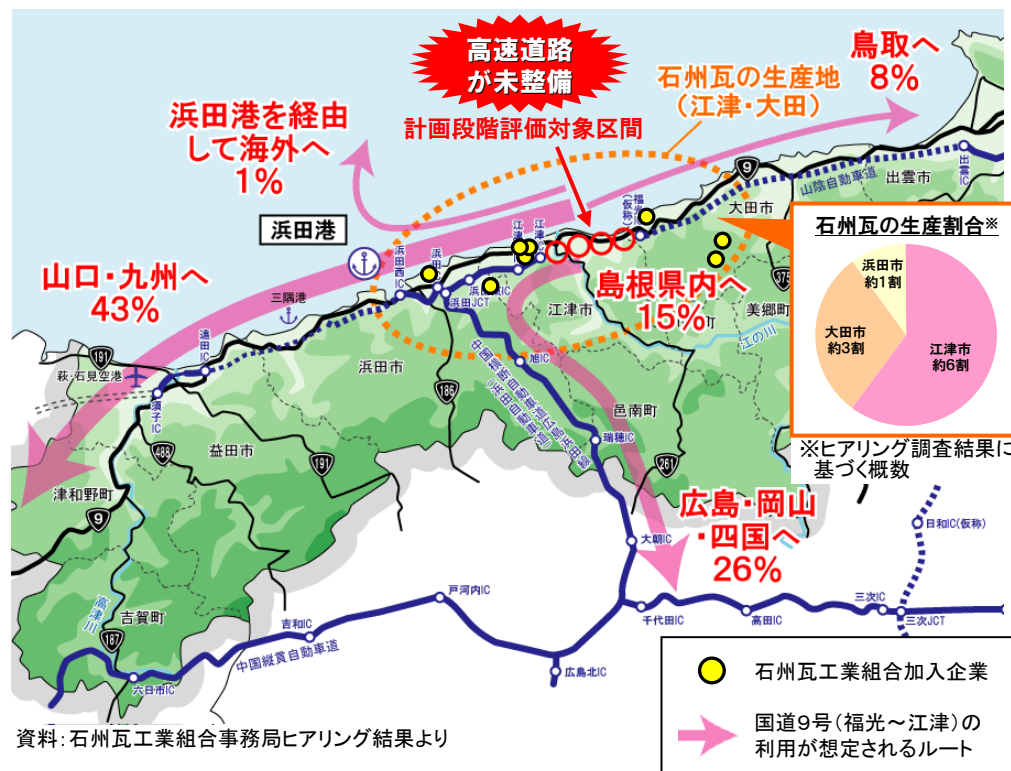
写真：島根県ホームページ

【粘土瓦の県別シェア(H21)】



資料：「平成21年工業統計調査」経済産業省

■石州瓦の出荷ルート(H21)



資料：石州瓦工業組合事務局ヒアリング結果より

【石州瓦工業組合事務局の声】

- シェア拡大の最大の要素は「帰り荷の確保」である。
- 山陰道の全線整備やそれに伴う浜田港、境港の活性化等により、コスト面で競争力が向上し、出荷拡大に繋がる可能性が高い。
- 現道の輸送では揺れや衝撃で瓦が割れる危険性があるため、走行性の高い輸送ルートの確保が重要。

1-5. 産業の状況（3）浜田港の役割

- 浜田港は韓国、ロシア、また、中国に近い好立地条件を活かし、国際貿易の「日本海側拠点港（原木）」に指定。
- また、平成13年の「国際定期コンテナ航路」開設以降、コンテナ数は年々増加傾向にある。
- 出雲市方面への化学石膏・牧草の輸送や大田方面からのスラグサンドの輸送には、国道9号が利用されている。

■ 浜田港の特徴

（立地条件）

- 韓国、中国、ロシアに近い好立地条件

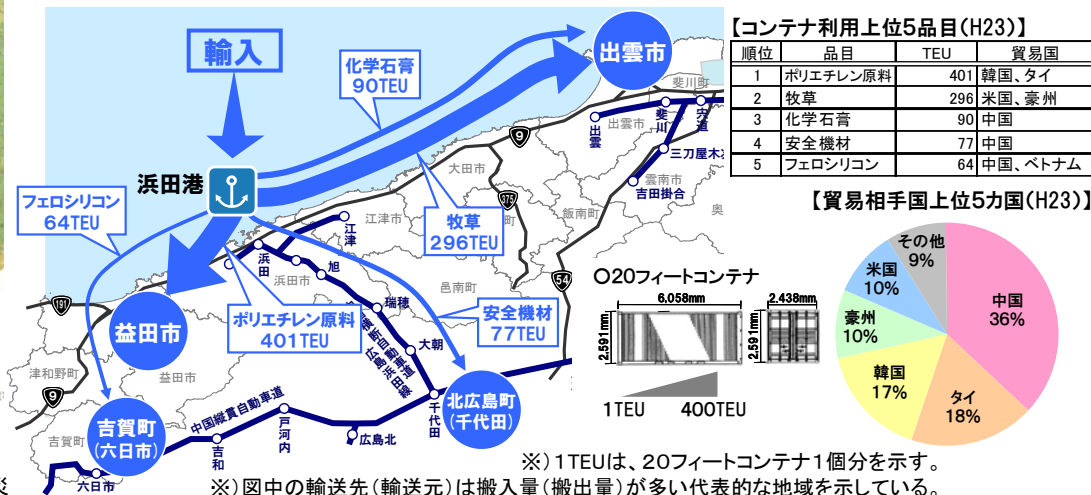
（国際航路）

- ・釜山港との国際定期コンテナ航路
- ・ウラジオストックとのRORO船航路

日本海側拠点港（原木）に指定



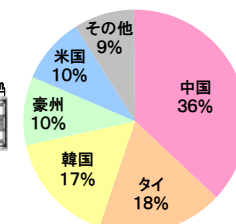
■ 国内における主な輸送先及び経路（コンテナ利用上位4～5品目）



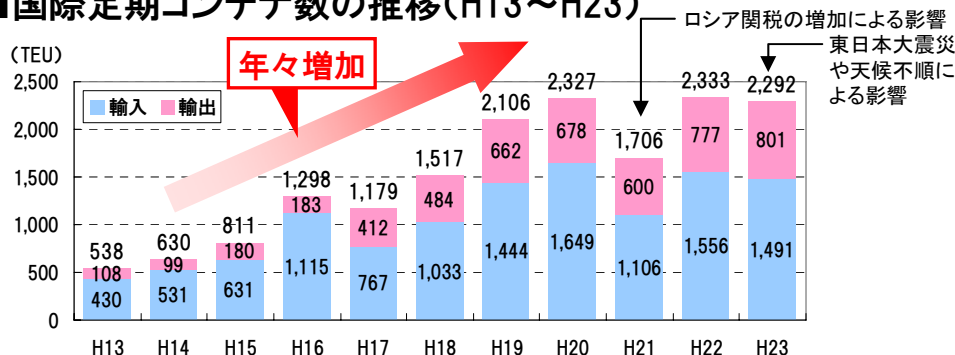
【コンテナ利用上位5品目（H23）】

順位	品目	TEU	貿易国
1	ポリエチレン原料	401	韓国、タイ
2	牧草	296	米国、豪州
3	化学石膏	90	中国
4	安全機材	77	中国
5	フェロシリコン	64	中国、ベトナム

【貿易相手国上位5カ国（H23）】



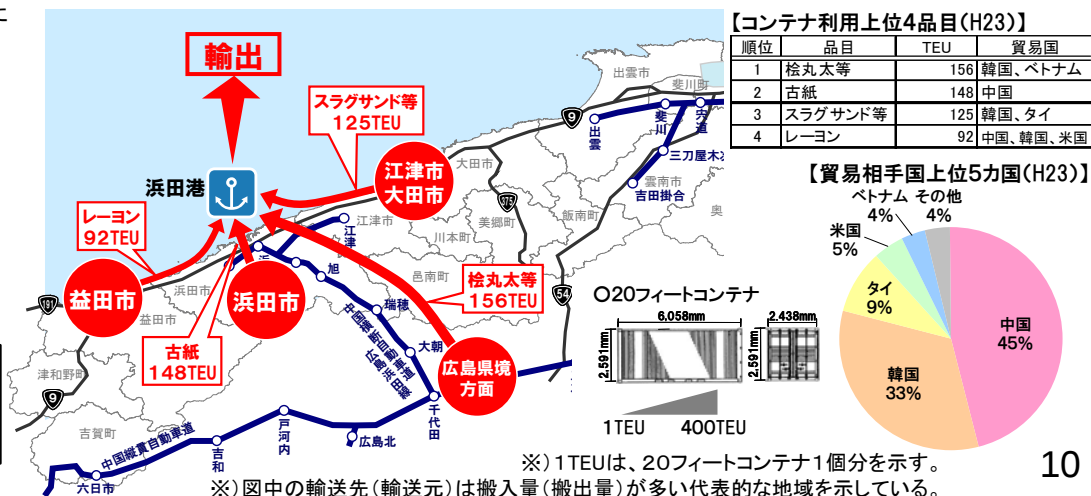
■ 国際定期コンテナ数の推移（H13～H23）



【浜田港振興会事務局の声】

- アクセスルートが国道9号1本しかないことは、港の利用が敬遠される理由となる。
- 山陰道の整備により、リードタイムの短縮や輸送コストの削減が進めば、利用企業の増加、ひいては定期航路の拡大につながり、さらなる利用促進が期待できる。

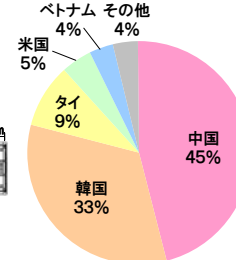
資料：浜田港振興会ヒアリング結果を基に作成



【コンテナ利用上位4品目（H23）】

順位	品目	TEU	貿易国
1	桧丸太等	156	韓国、ベトナム
2	古紙	148	中国
3	スラグサンド等	125	韓国、タイ
4	レーヨン	92	中国、韓国、米国

【貿易相手国上位5カ国（H23）】

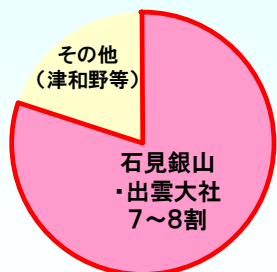


1-6. 観光の状況（1）

- 島根県西部は、世界遺産石見銀山をはじめとし、著名な観光資源も複数存在する。
- 石見銀山には、広島や山口、九州方面からの観光客も多く訪れており、国道9号が利用されている。
- 浜田港は、クルーズ客船の寄港地となっており、周遊観光の7～8割が石見銀山や出雲大社を訪れている。

■島根県西部地域の主要観光地

【クルーズ客船ツアーにおける
陸上観光コースの参加者内訳※1】



仁摩サンドミュージアム(大田市)



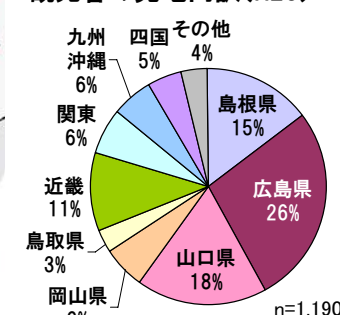
石見銀山・龍源寺間歩(大田市)



三瓶山(大田市)

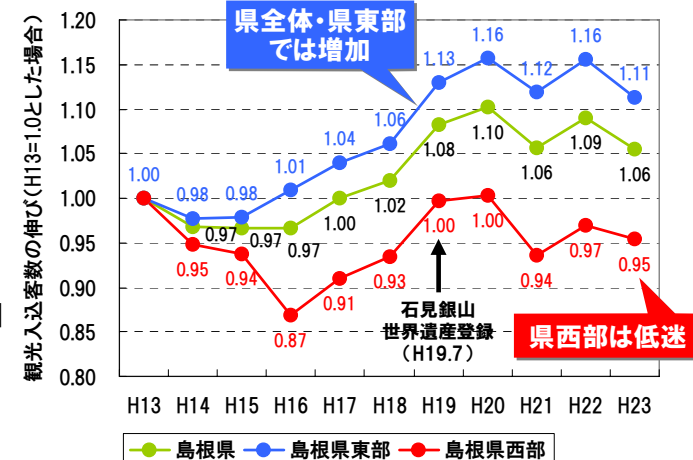


【島根県西部を訪問する
観光客の発地内訳(H23)※2】

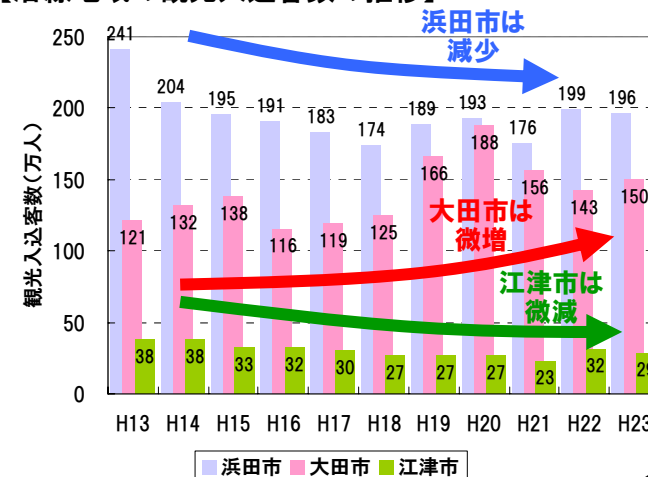


資料:「平成23年島根県観光動態調査」島根県

【島根県内の観光入込客数の推移(H13=1.0)】



【沿線地域の観光入込客数の推移】



資料:「島根県観光動態調査」島根県

※1)クルーズ客船ツアーの陸上観光コースの参加者内訳については、ツアー企画会社へのヒアリング調査結果に基づく概数。

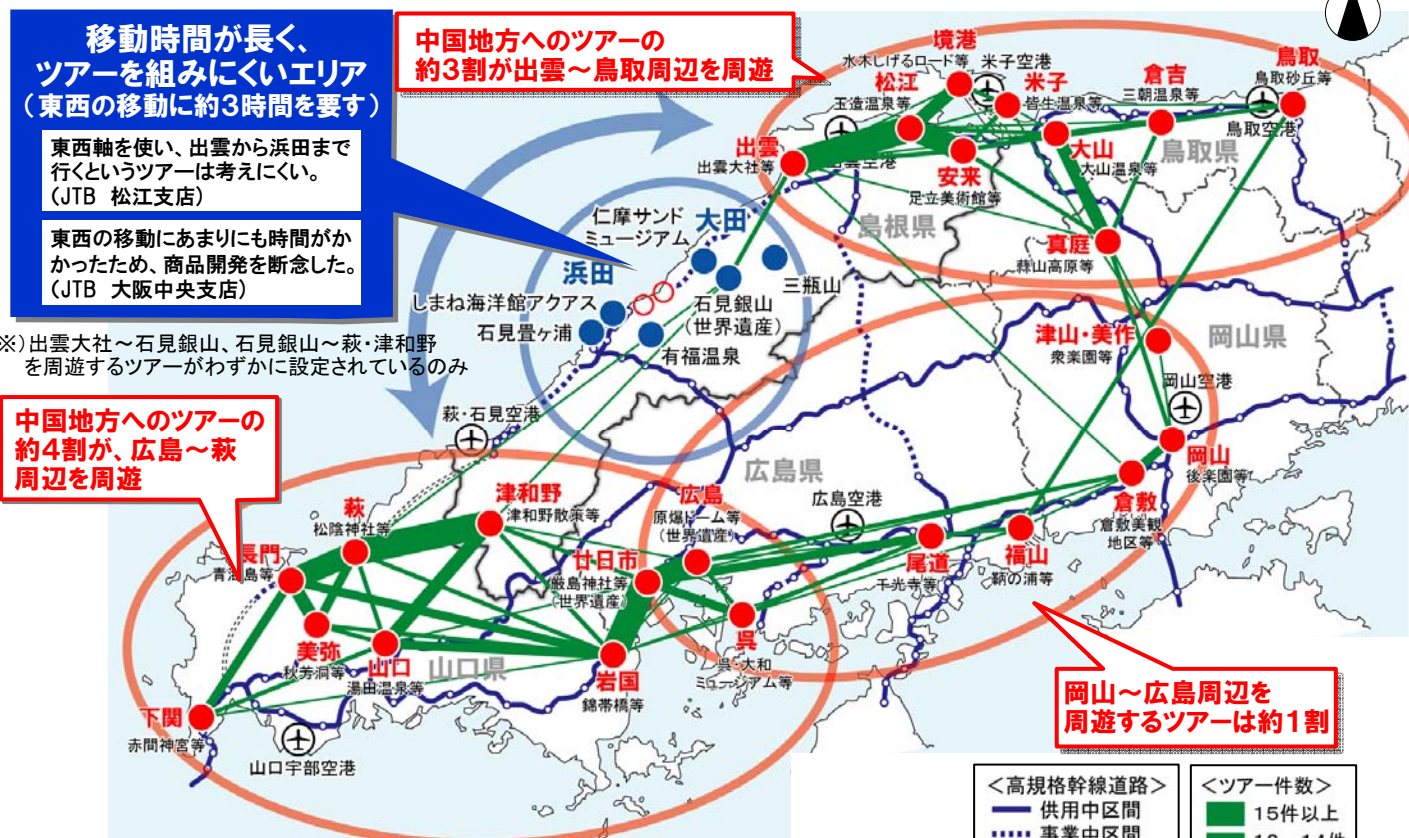
(H21.9.30の「にっぽん丸」、H21.11.27の「飛鳥Ⅱ」が寄港した際の浜田港からの陸上観光ツアー情報による)

※2)「石見銀山(大田市)」、「石見海浜公園(浜田市)」、「太鼓稲荷神社(津和野町)」で実施したアンケート調査結果(回答者の住所)に基づく。

1-6. 観光の状況（2）

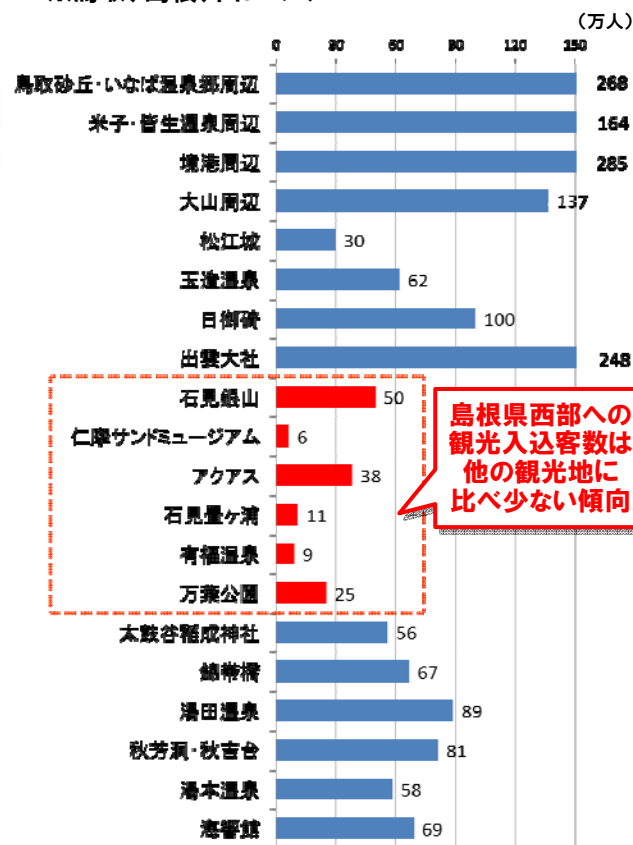
- 三大都市圏及び九州地方発観光ツアーは、出雲～鳥取周遊や広島～山口周遊のツアーが組まれているが、島根県西部は、東西の移動時間が長く、観光ツアーが組み難い立地状況となっている。
- また、島根県西部への観光入込客数は、他に比べ少なく、全ての観光地が50万人を下回っている。

■中国地方を周遊する主な観光ツアーの状況



■主要観光地における観光入込客数

※鳥取、島根、山口のみ



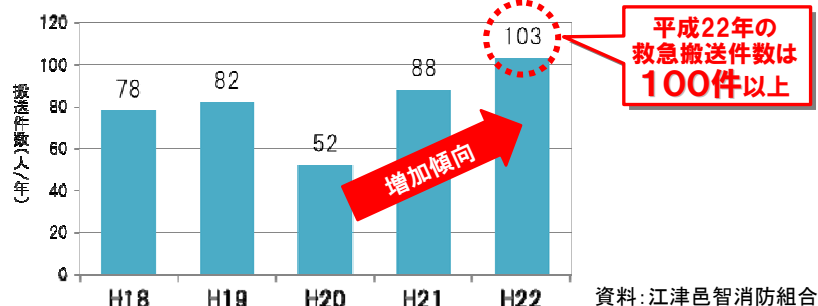
資料／各県観光動態調査（平成23年）
※ただし、観光入込客数は県単位で調査・集計方法が異なる

1-7. 医療の状況

- 江津市から出雲市の三次医療機関への搬送は近年増加傾向にあり、平成22年は年間100件を超えている。
- 大田市・江津市境では年間500件以上の救急搬送が行われている。
- 大田市、江津市の病院では、近年、整形外科や循環器内科等、専門医の減少・不在により、医療圏を越えた広域搬送が常態化。

■地域医療の現状

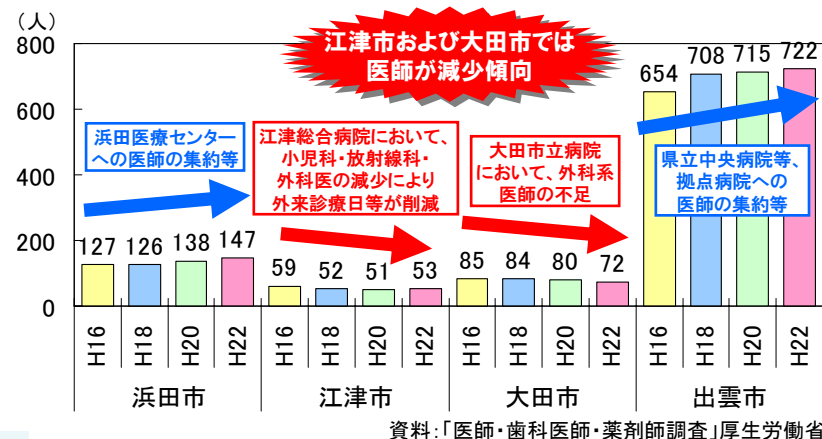
【江津市から出雲市の三次医療機関への搬送推移】



【福光～江津間の救急搬送状況】



【島根県内の主要都市における医師数の変化】



～周辺地域の主要病院における最近の動向～

【島根大学医学部附属病院／二次医療機関 ⇒ 三次医療機関】

全国的に不足する救急医の育成や、一極集中化が顕著な県立中央病院の負担軽減等を図るために、**新たに救命救急センターに指定**(平成24年9月中に県医療審議会の了承を経て、県知事が告示予定)

【江津総合病院】

常勤医の減少や看護師不足により、**一部の一般病棟(48床)を休止**

【消防署(救急隊員)の声】

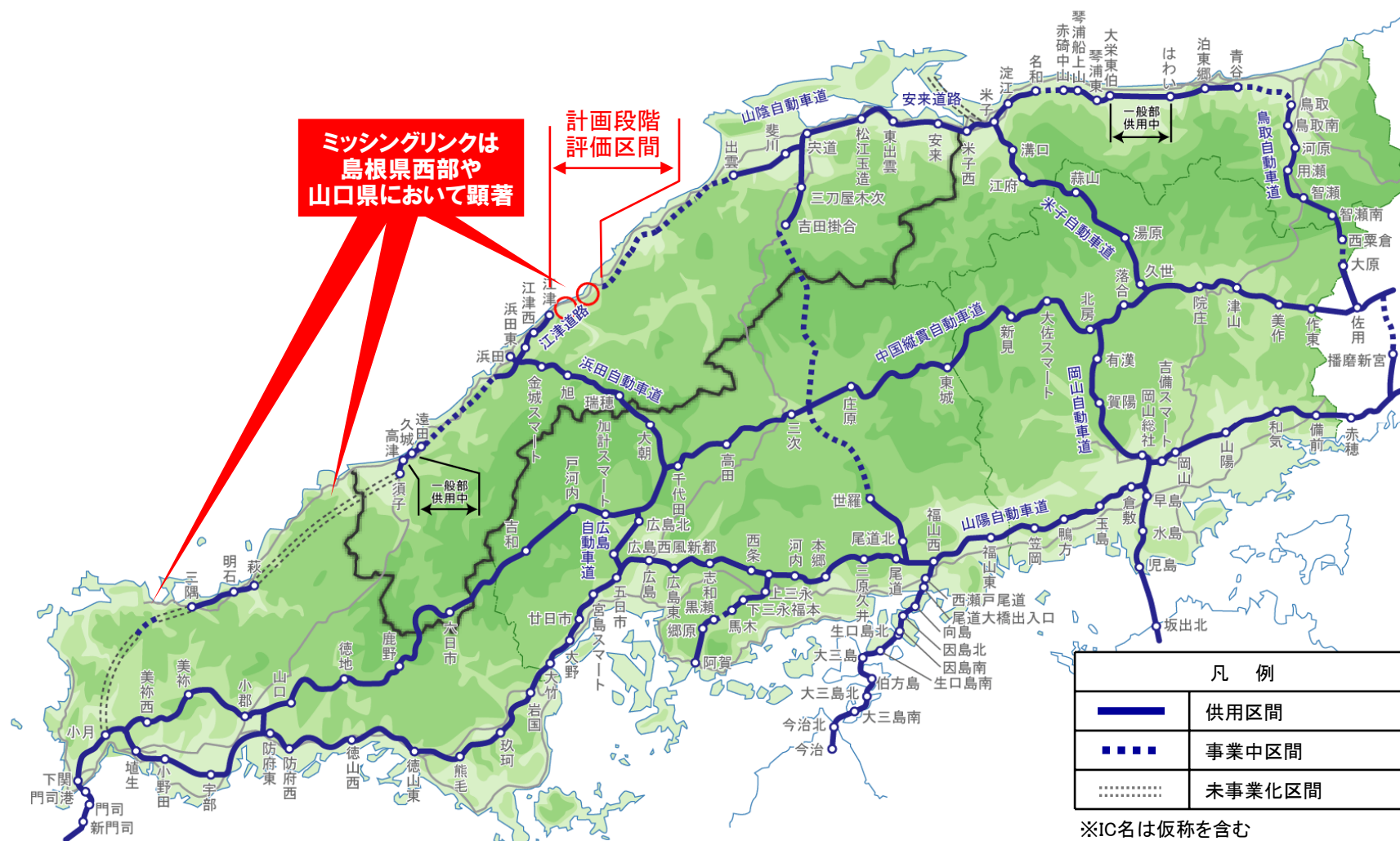
- ・西部消防署では、(出動後) **各現場から江津総合病院までは平均30分、1つの救急活動で1時間くらいの時間を要する。** (大田市消防本部)
- ・医師不足の問題は深刻であり、**今後は出雲方面の第三次救急医療施設への搬送が更に増大する。** (江津邑智消防組合)
- ・浜田医療センターも医師が不足(脳外科の先生は一人)。救命救急センターとして**24時間体制の救急診療を行っている県立中央病院へのアクセス改善はきわめて重要。** (浜田市消防本部)

2. 道路・交通の状況と課題

2-1. 広域道路の整備状況（1）

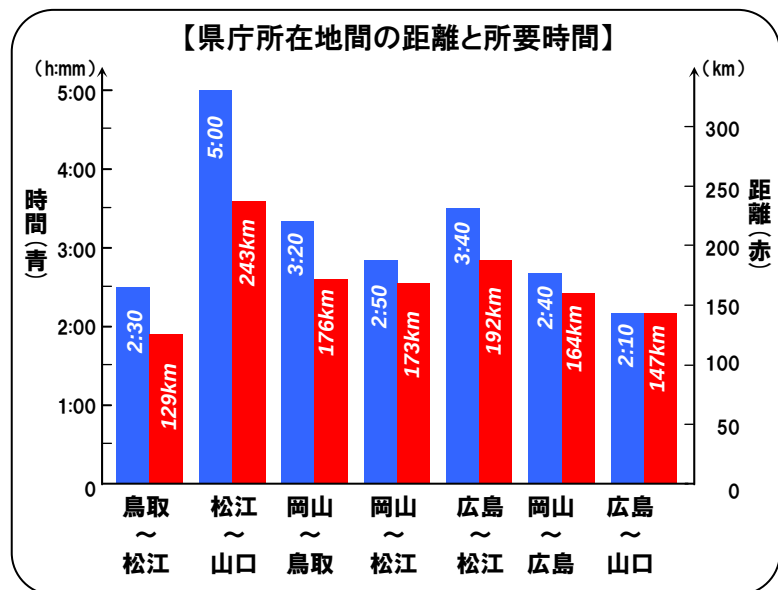
- 中国地方の高規格幹線道路網は、山陽側は概ねネットワークが形成されているものの、山陰の西部地域は、未整備区間が多く存在する。

○中国地方における高規格幹線道路網の整備状況(H24.4月現在)



2-1. 広域道路の整備状況（2）

- 高規格ネットワークの整備の違いにより、地域によって移動サービスの程度が大きく異なる。
- 山陰地方（鳥取県、島根県、山口県北部）で時間距離が大きくなっている。

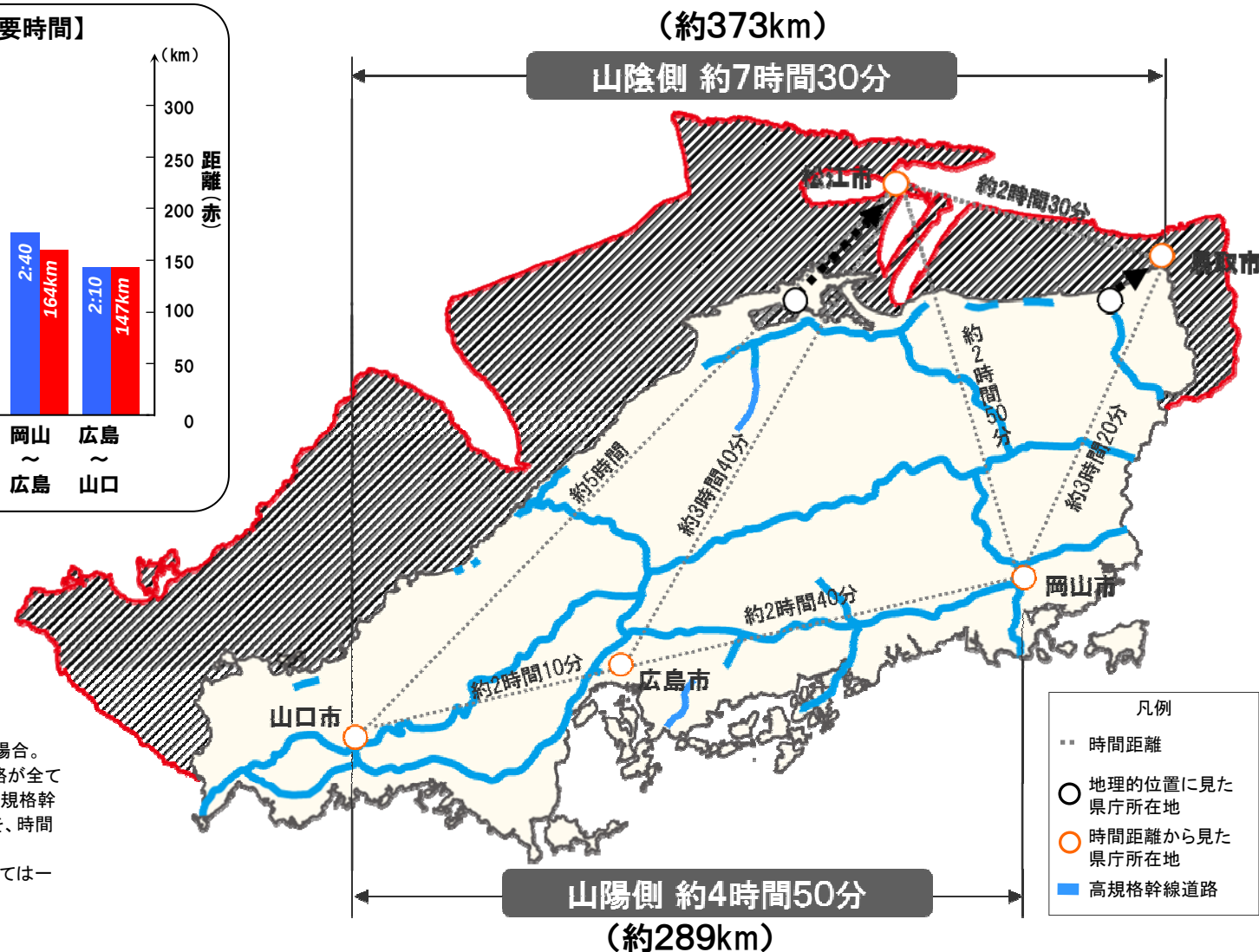


資料：H22道路交通センサスにおける混雑時旅行速度

※所要時間は、H22時点で供用している道路を利用した場合。

※右の図は、中国地方で計画されている高規格幹線道路が全て完成した時の主要都市間の所要時間と、H22時点の高規格幹線道路ネットワークにおける所要時間を比較したものを、時間距離としてイメージ化したもの。

※イメージのため、都市間の所要時間と位置関係については一部一致していない部分が存在する。

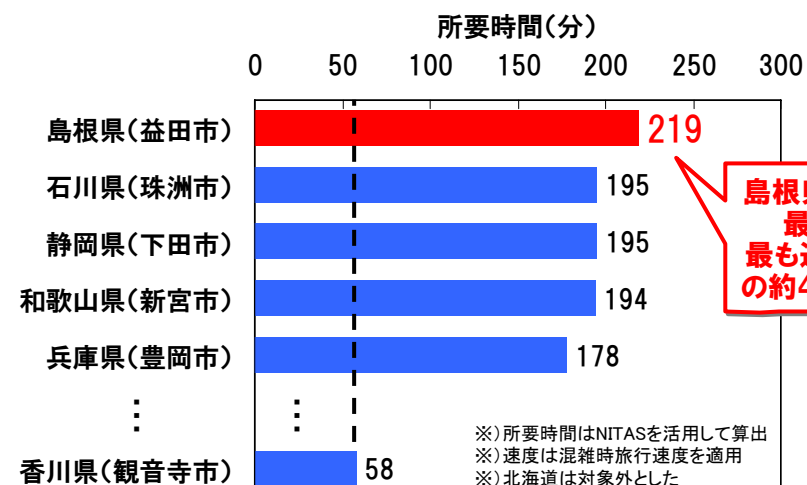


2-1. 広域道路の整備状況（3）

- 島根県は東西に細長く、国道9号が東西を結ぶ唯一の幹線道路である。
- 島根県西部の益田市から県庁所在地の松江市まで約3時間40分を要す等、地域間の連絡性が著しく低い状況。



【県庁へ最も遠い市の所要時間(都道府県別)】

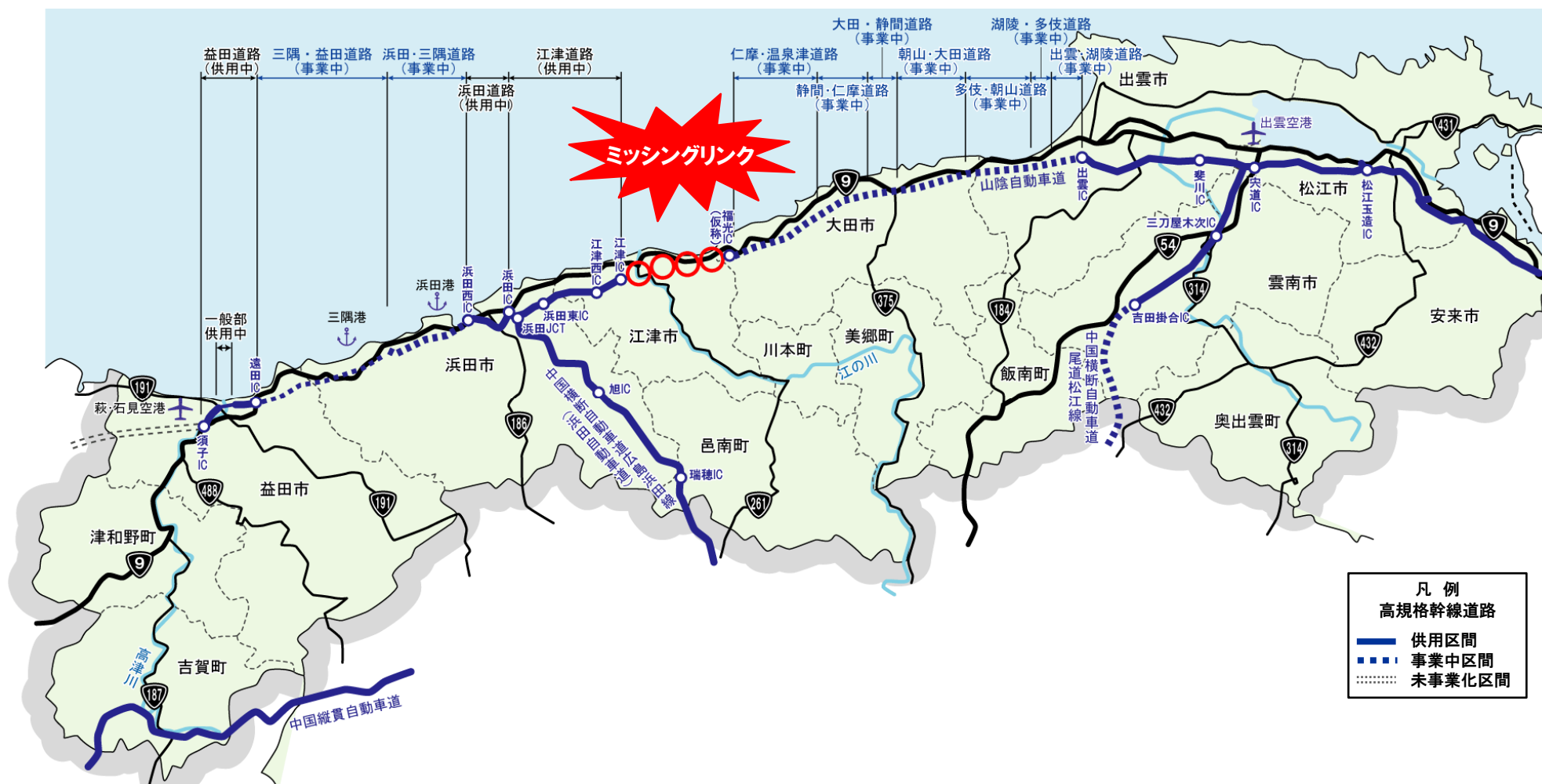


島根県益田市が
最も遠く、
最も近い香川県
の約4倍を要する

2-2. 道路網の整備状況

- 島根県の出雲以西の山陰道で、現在供用している区間は、江津道路、浜田道路、益田道路のみ。
- 松江市～益田市間において、福光～江津間が都市計画決定されていない唯一の区間である。

○島根県内における高規格幹線道路網の整備状況(H24.4月現在)



2-3. 都市・地域間移動のサービスレベル

- 高速道路の未整備区間では、都市・地域間移動のサービスレベルが著しく低い。
- 浜田～出雲間のサービスレベルは50km/hを下回る。

【高速道路網の整備状況】



【都市・地域間移動のサービスレベル】

未整備区間におけるサービスレベルの低さが顕著

浜田～出雲間のサービスレベルは50km/hを下回る。

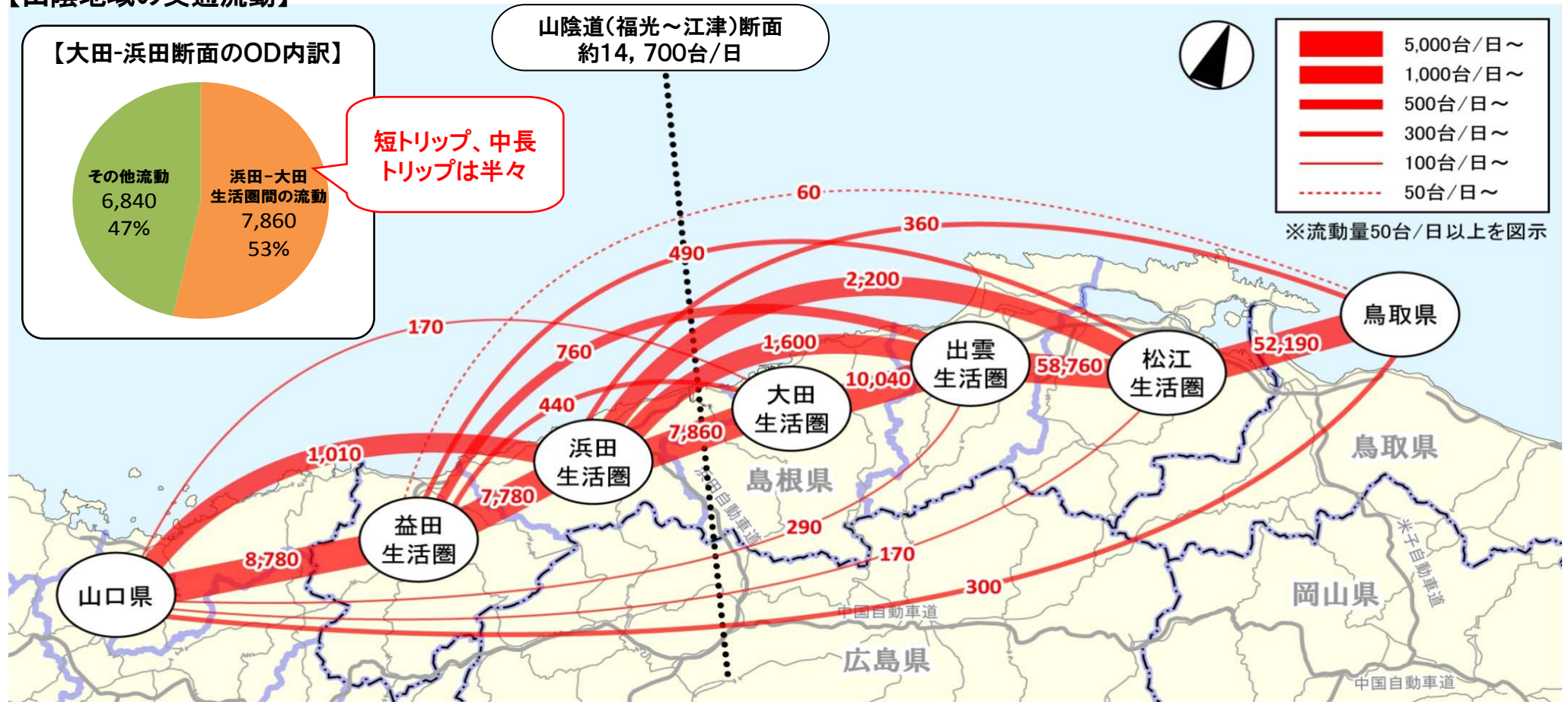


※) 都市間連絡速度(都市間の最短道路距離を最短所要時間で除したもの)

2-4. 山陰地域の交通流動

- 山陰道(福光～江津)に関する交通流動は約14,700台/日の需要が存在。
- そのうち、浜田生活圏⇄大田生活圏間が約7,900台/日、島根県西部の浜田・益田生活圏から島根県東部の松江・出雲生活圏への交通も、約5,100台/日に及び、福光～江津間を利用する交通の平均トリップ長は約124kmと長い。

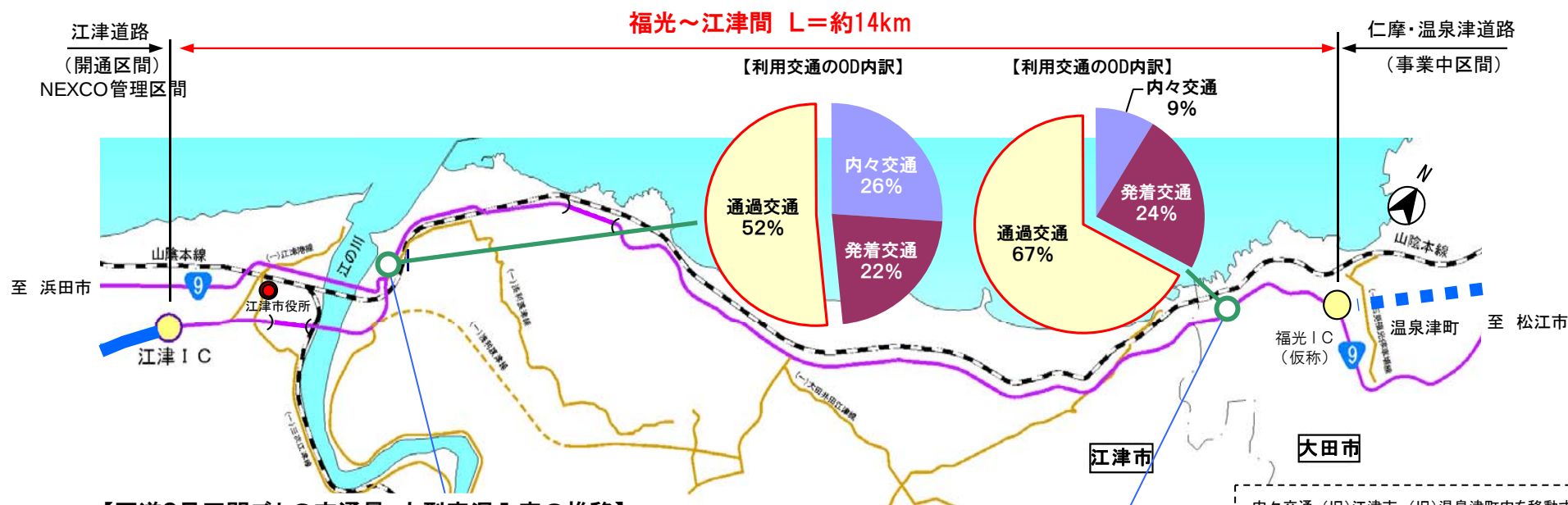
【山陰地域の交通流動】



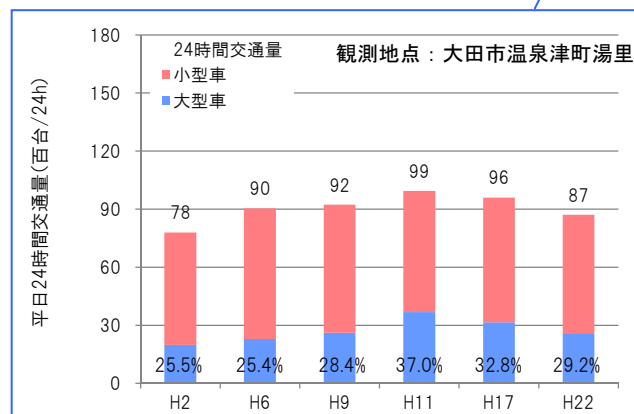
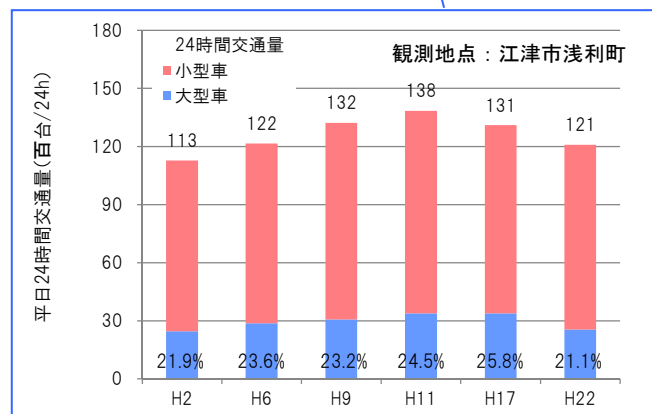
資料／H17センサスOD

2-5. 国道9号の交通状況

- 国道9号の福光～江津間の交通量は、約9,000～13,000台/日で推移しており、そのうち大型車は約3,000台/日。
- また、当該地域を通過する交通は利用交通全体の約5～7割を占めている。



【国道9号区間ごとの交通量・大型車混入率の推移】



内々交通：(旧)江津市、(旧)温泉津町内を移動する交通
 発着交通：(旧)江津市、(旧)温泉津町を発着する交通
 ※)内々地域 ⇄ その他の地域 間の移動
 通過交通：(旧)江津市及び(旧)温泉津町を通過する交通
 ※)その他の地域 ⇄ その他の地域 間の移動

資料：H17センサスペース交通量推計結果

資料：H22道路交通センサス
 ※) H2～H9の車種別交通量は12h交通量に
 昼夜率を乗じて算出

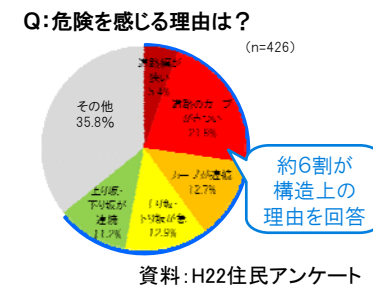
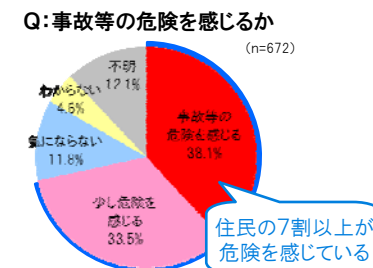
2-6. 道路現況 道路幾何構造の不良

- 国道9号の福光～江津間では、死傷事故率が全国平均(99件/億台キロ)を超える区間が多数存在。
- 当該区間の交通事故致死率も全国に比べ約7倍と高く、地域住民の事故への不安も大きい。
- 交通事故による通行止めも多発(約3回/年)しており、地域経済や住民生活に多大な支障を及ぼしている。

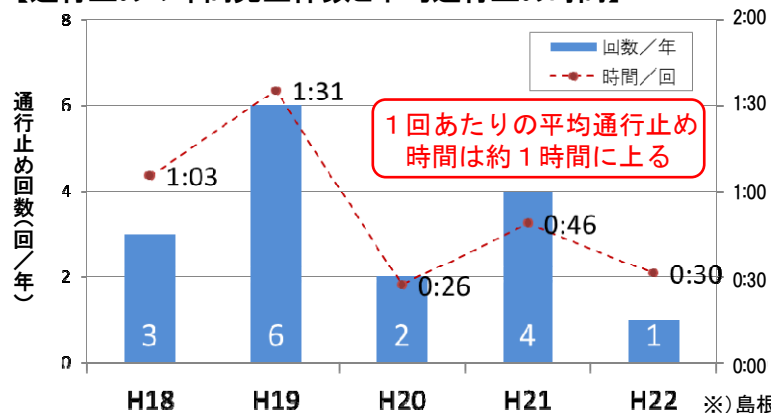
【交通事故の発生状況と通行止め状況】



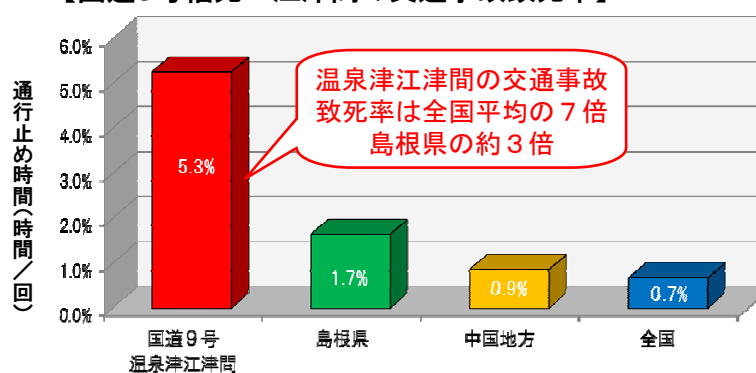
地域住民の声



【通行止めの年間発生件数と平均通行止め時間】



【国道9号福光～江津間の交通事故致死率】



【事故による通行止め状況】



事故発生日 : H17. 10. 2
発生場所 : 江津市後地町
全面通行止め : 約1時間20分

※) 島根県及び中国地方、全国値は平成21年警察白書、国道9号温泉津江津間は交通事故総合データベース
※) 致死率(人/件(%))=死者数(人)/死傷事故件数(件)(H18-21平均値)

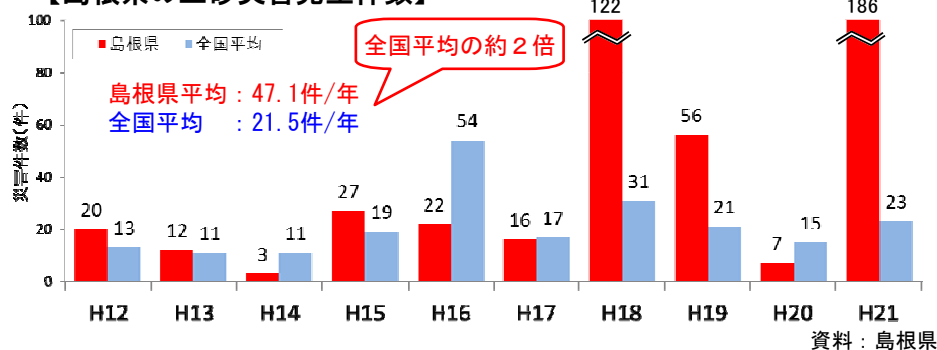
2-7. 災害危険箇所の状況

- 国道9号福光～江津間には、急傾斜地崩壊危険箇所等の土砂災害危険箇所が多数分布。
- 県内での土砂災害発生件数は、全国平均に比べ約2倍と高く、土砂災害の危険性は高い。
- 昭和58年に発生した豪雨災害では、洪水のみならず多くの箇所で土砂災害が発生し、甚大な被害が発生。

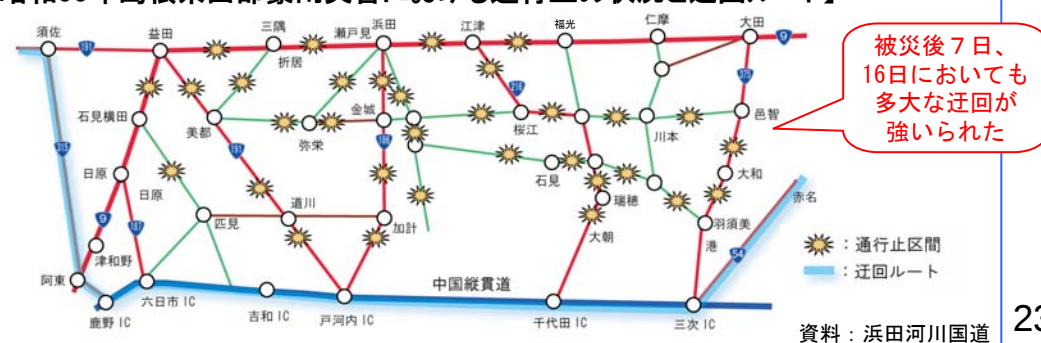
【土砂災害危険箇所等の分布状況】



【島根県の土砂災害発生件数】



【昭和58年島根県西部豪雨災害における通行止め状況と迂回ルート】



2-8. 通行止めによる迂回の状況

- 国道9号の福光～江津間で通行止めが発生した場合、周辺の道路には狭幅員区間が多数存在することから、大きく迂回する経路を選択せざるを得ない状況。(迂回路使用時の時間比は通常時の約2.8倍)

代替路の距離・所要時間の比較

↔	現 道	約18km/約23分
↔	迂回路	約56km/約64分



※) 所要時間はH22センサス速度により算出。

▼ 迂回路の状況



幅員が狭く、緊急車両や貨物車の通行が困難

▼ 通行止め発生時の迂回ルート



3. 地域及び道路の現状と 課題のまとめ

3. 地域及び道路の現状と課題のまとめ

現 状	道路ネットワークの課題
【産業】 ・ 地域の主要産業（漁業、パルプ・紙・木製品、窯業等）にとって東西移動は重要 ・ 島根県西部への企業立地は少なく、県内での東西格差が顕著 ・ 浜田港が「日本海側拠点港湾」に指定され、日本海側の拠点港として、重要な役割を担う一方で、国道9号の物流ネットワークに課題あり	・ 都市間（東西方向）の移動に時間を要す道路ネットワーク ・ 救急医療機関への速達性が不十分
【医療】 ・ 大田市、江津市では、医師不足等による外科医等の不在や救急指定の取り下げにより、三次医療機関がある出雲市への広域搬送が増加傾向にある	
【観光】 ・ 島根県西部の観光客数は他の県内地域と比べて少なく空白地域となっている ・ 東西の移動に時間を要することから、県西部を周る観光ツアーが組みにくい ・ クルーズ船の寄港が増加する一方で、短時間での周遊が困難	
【災害・迂回】 ・ 島根県は花崗岩風化土などの特殊土壌地帯であり、土砂災害危険箇所が多い ・ 昭和58年には激甚災害が発生し、道路の寸断や地域の孤立が至る箇所が発生 ・ 当該区間には、土砂災害危険箇所が多数存在し、災害時に地域が分断する恐れがある	・ 災害発生危険性が高く、代替路のない脆弱な道路ネットワーク
【交通事故・通行止め】 ・ 交通事故が多発している箇所（100件/億台キロ以上）が多数存在 ・ 道路構造不良箇所（11箇所）の存在が事故の一因ともなっており、地元住民からも不安要素として指摘されている ・ 通行止めは多大な迂回を必要とし、地域経済や住民生活に支障を与えている	・ 道路幾何構造の不良箇所の存在 ・ 事故による通行止めの発生と、代替路のない脆弱な道路ネットワーク

4. 政策目標の設定

4-1. 圏域の将来像

◇わが国では、人口減少、高齢化、グローバル化の進展、東アジアの急成長、情報通信技術の発達など、新しい時代の潮流を踏まえ、平成20年7月に将来の日本の姿を示す「国土形成計画（全国計画）」を閣議決定。

◇平成21年8月には、広域ブロックの自立発展に向け、全国計画の基本的方針に基づき、「中国圏広域地方計画」を決定。

中国圏広域地方計画 ～瀬戸内・日本海に臨む基幹産業と里山の資源で創る交流圏域～

中国圏の将来像

- ①地域の多様性を活かした交流・連携で、持続的に発展する中国圏
- ②産業集積や地域資源を活かした新たな挑戦で、持続的に成長する中国圏
- ③多彩な文化と自然を活かして、多様で豊かな生活を楽しめる中国圏

施策の柱	主要施策（抜粋）
将来像①－1 多様な地域が連携した一体感のある中国圏の形成	・地域の個性や魅力の源泉となる歴史、文化、自然、景観等を再認識し、その継承・創造を図るとともに、分散する都市を活かし、<u>それぞれが役割を発揮して相互に連携強化</u>することで、自立的な中国圏の形成を図る。 ・生活、産業等における都市と中山間地域等の多様な交流を拡大するとともに、<u>圏域内外の地域間交流を支える基幹的な交通機能の整備</u>や、地域特性に応じた高度情報通信ネットワークの強化を推進する
将来像①－2 隣接圏域を含めた交流・連携による活力・魅力の向上	・<u>産業競争力や誘引力の強化</u>、広域的課題への効率的かつ効果的な対応等、中国圏の活力・魅力の向上を図る。 ・産業振興と地域活性化を一体的に推進するため、中国圏内外の各地域が連携し、世界遺産や瀬戸内海、日本海等の多様な観光資源を活かした<u>広域的な連携による観光振興の促進</u>を図る
将来像②－1 国際競争力のある産業の振興	・中国圏産業の国際競争力の向上のため、国際物流の効率化・高度化に寄与する港湾の再生・機能強化、<u>シームレスな貨物輸送ネットワークの構築等、国際物流基盤の整備を進める</u>。
将来像③－1 中山間地域等と都市地域との交流・連携等による生活サービス機能の確保	・持続的な国土管理と多様で豊かな生活環境の保全のため、都市住民も含めた中国圏に暮らす全ての人が中山間地域等の存在意義や役割等の価値観を共有するとともに、<u>都市と中山間地域等を一体的に捉えた生活拠点を形成することにより、生活サービス機能を確保する</u>
将来像③－2 安全・安心な国土・地域づくりの推進	・河川の氾濫区域に人口の約 66%が暮らしている中国圏においては、流域圏に着目した国土管理、<u>災害対策を推進するとともに、防災拠点整備や災害時の情報収集・伝達体制の充実や、ハザードマップの活用等、地域防災力の向上を図ることにより、災害に強い国土・地域基盤を整備する</u>

4-2. 地域の将来像

島根総合発展計画 第2次実施計画(期間:H24-H27)

島根県の将来像 『豊かな自然、文化、歴史の中で、県民誰もが誇りと自信を持てる、活力ある島根』

目標	政策(抜粋)
基本目標Ⅰ 「活力あるしまね」 ～ 活発な産業活動が展開され、若者が生き活きと働き、国内外から多くの人が訪れる、活力ある社会を目指します ～	【ものづくり・IT 産業の振興】 国際的な競争力のある裾野の広い、ものづくり産業を創出するとともに、 <u>IT 産業の育成・誘致を戦略的に推進し、生き活きと働くことのできる雇用の場を拡げ地域産業を振興する。</u>
	【自然が育む資源を活かした産業の振興】 高品質で付加価値が高い売れる農林水産品・加工品づくりや、 <u>県産品の販路拡大を戦略的に展開するとともに、意欲のある担い手を育成・確保し、地域産業を振興する。</u>
	【観光の振興】 島根の魅力を最大限に活かした観光地づくりと積極的な情報発信により、 <u>国内外からの誘客を促し、観光を振興する。</u>
	【産業基盤の維持・整備】 産業活動や地域間交流を支える高速道路の整備を推進するとともに、航空路線の維持・充実を図ることにより、 <u>県外や県内各地との時間距離の短縮など、利便性の向上を図り、人や物の交流拡大を目指す。</u>
基本目標Ⅱ 「安心して暮らせるしまね」 ～ 県民誰もが、生涯にわたり安心して生活を送ることが出来る社会を目指します ～	【安全対策の推進】 様々な災害や事件・事故等に即座に対応できるよう <u>危機管理体制の強化</u> を図るとともに、防災・防犯等に関する意識の啓発、地域を守る自主的な取組や <u>交通安全対策等の推進、安全な県土づくりを進める。</u>
	【医療の確保】 すべての県民が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、 <u>適切な医療を提供できる体制を整備する。</u>
	【生活基盤の維持・確保】 医療、福祉、買い物等日常生活を支える機能が、地域の実情に即した様々な仕組みやサービス提供形態によって維持・確保できる社会を目指す。 <u>道路網や下水道等が整備され、子育て家族や高齢者にも住みやすい生活環境の確保を図る。</u>

4-2. 地域の将来像

各市町村の総合計画等

内容	主要施策(抜粋)
【大田市】 大田市総合計画 後期計画(期間:H24-H28) 『自然・歴史・ひとが光り輝くだれもが住みよい県央の中核都市』	【地域資源のネットワークによる活発な産業づくり(産業振興)】 ○地域一体での「もてなし」の充実による産業の振興(例: <u>観光地への誘導、観光による交流人口の拡大</u>) ○ <u>戦略的な企業誘致活動の推進と「攻める」体制の強化</u> 【だれもが住みよく、安心・やすらぎを感じる生活づくり(保健・医療・福祉)】 ○生涯を通じた健康づくりの推進と地域医療の充実・確保(例: <u>地域医療の確保と医療サービスの充実</u>) 【県央の中核都市にふさわしい、快適な基盤づくり(基盤整備)】 ○ <u>人・物の交流を支える道路ネットワークの形成(例:山陰道をはじめ国道・県道・市道・広域農道等、幹線道路網の整備を推進)</u> ○安全な生活の確保(例:火災及び風水害、震災時等の被害防止のため、消防力及び <u>救急救助体制の充実・強化</u>)
【江津市】 第5次江津市総合振興計画 後期基本計画(期間:H24-H28) 『元気！勇気！感動！ごうつ ～江の川が育むイキイキ協働体～』	【定住促進4大重点プロジェクト】 ○ひと育てプロジェクト(子育て環境の整備、教育力の向上) ○地域の元気応援プロジェクト(中山間地域の活性化、地域コミュニティの推進) ○魅力ある産業の創出・育成プロジェクト(<u>雇用の場の確保</u>) ○地域の安全・安心プロジェクト(<u>防犯・防災対策、地域医療の確保</u>) 【活力ある産業で豊かな生活を築くまちづくり】 ○農林水産業や製造業などの <u>地場産業の振興及び企業誘致・新規産業創造</u> を推進し、雇用の確保と若者定住を促進するとともに、 <u>観光と連携した地域産業の活性化</u> につながる施策展開を図る。 【安全で快適な暮らしを支えるまちづくり】 ○市民の生活・交流、産業振興等を支える道路・ <u>交通網</u> をはじめ、安全で快適な暮らしを支える生活基盤を総合的に整備するための効果的な施策展開を図る。
【浜田市】 浜田市総合振興計画 後期基本計画(期間:H23-H27) 『青い海・緑の大地人が輝き文化のかおるまち』	【健康でいきいきと暮らせるまち】 ○市民だれもが健康でいきいきと暮らすことができる環境と長い人生を安心しておくることのできる環境を備えた <u>保健、医療、福祉が連携するまち</u> を目指す。(地域全体の総合的な医療体制を整備、 <u>救急医療体制の充実</u>) 【地域資源を活かした産業を創造するまち】 ○農山漁村の地域資源を有効に活用し、農林水産業や商工業などの <u>既存産業と観光とのネットワーク化</u> により、自立と魅力が持てる地域の産業振興に取り組み、活力ある産業を創造するまちを目指す。 【快適で安心して暮らせる、にぎわいのあるまち】 ○ <u>地域内を結ぶ便利な道路網と広域的な社会・経済活動を促進する高速道路網</u> を核に鉄道、港湾など各種交通基盤の充実と情報通信基盤を整備し利便性を高め、安全、安心、快適性にすぐれ暮らしの活力を生む都市機能を持つまちを目指す。

4-3. 今後の高速道路のあり方（中間とりまとめ）H23.12.9

・強くしなやかで国際競争力ある国土の実現を見据え、大都市圏におけるネットワークの機能不全並びにミッシングリンクに起因する脆弱な地域の存在等を課題としてネットワーク強化の必要性を強く認識するとともに、これらに最優先のプライオリティを持って対処することが必要。

◇ネットワーク再考の基本理念

●人口減少局面での国土の再編・強化

- ・大都市・ブロック中心都市の機能を一層高め、アジア・ダイナミズムとの相関のなかで国際競争力を強化
- ・戦略的な観光振興・外客誘致とあわせ、移動性向上により人口減少化における活力維持を支援
- ・医療などの地域サービスへのアクセスを守り、持続可能な地域社会に求められる機能・役割の効率的分担を実現する連携生活圏を形成

●国土の信頼性向上

- ・東日本大震災、頻発する台風・土砂災害などにより、改めて認識された国土の脆弱性を克服し、信頼できる国土を実現

◇高速道路ネットワークに求められる主な機能

①大都市・ブロック中心都市を強化し、連携を図る

- ・高度な都市機能の発揮に必要な環状道路等、大都市やブロック中心都市のネットワークを充実・強化
- ・大都市・ブロック中心都市間の連絡については、国土の骨格となるネットワークとして高いサービスレベルを確保

②ゲートとなる空港・港湾などとの連結性を高め、アクセスを強化

- ・交通拠点までを大きく迂回することなく結ぶ等、利用者に使いやすいスムーズなアクセスにより、複数の交通機関の継ぎ目ない連携を実現

③主要な都市間・地域間について、走行性が高い国道も活用しつつ、安全性にも配慮して、連絡速度60km/h～80km/h程度のサービスレベルを確保

- ・医療などの地域サービスへのアクセスを確保
- ・主要な観光資源、空港などの連絡性を高め、周遊性を確保
- ・農業をはじめとする地方の機関産業に必要な輸送を効率化し、競争力を醸成
- ・日本海側港湾間や太平洋側と日本海側をつなぐ横断軸を強化

④災害時にも機能するネットワークを確保

- ・並行する国道とも連携しながら、災害時にも機能するネットワークの耐災性・補完性を確保
- ・三大都市、ブロック中心都市を結ぶネットワークは、いざという時にも機能するよう多重化

◇明確なプライオリティに基づく戦略的整備

●日本経済を牽引する拠点地域として、大都市・ブロック中心都市におけるネットワークの緊急強化

- ①環状道路など抜本的対策の加速 ②ボトルネック箇所への集中的対策 ③運用改善等の工夫

●「繋げてこそそのネットワーク」を改めて認識し、脆弱な地域の耐災性を高め、国土を保全するネットワーク機能の早期確保

- ・地方における高速道路サービスは、地域の安心・安全に直結するとともに、観光資源を活かす基盤としても期待が大きく、広域的な移動の確保は重要。
- ・走行性の高い国道も活用しつつ、ネットワークとしての機能をできる限り早期に確保することが重要。

4-4. 政策目標の設定

◇ 地域の課題及び沿線自治体の総合計画を踏まえ、当該地域の政策目標を以下に設定

地域や道路の状況や課題

圏域の将来像

地域の将来像

今後の高速道路のあり方
(中間取りまとめ)

1. 災害時にも機能するネットワーク（リダンダンシー※）の確保
2. 救急医療機関への速達性、確実性の確保
3. 国際競争力の強化、産業の活性化
4. 観光振興の促進
5. 安全性の向上

※国道9号が通行止めになっても、近くに選択できる幹線道路を確保

◇ 対策案の検討

【リダンダンシー】

事故や災害時の迂回による社会経済活動や日常生活への影響を最小限に留め、住民の生活や地域の産業を守る道路整備とは

【医療関連】

医師不足等により地域医療の崩壊が進行するなか、地域住民の安心確保に向けた高次医療機関への速達性・確実性を向上させる道路整備とは

【国際競争力の強化・産業の活性化】

日本海側拠点港湾に指定された浜田港へのアクセス強化や地場産業の市場拡大を促す道路整備とは

【観光関連】

世界遺産である石見銀山を活かし、周辺観光地と一体となり、新たな観光周遊行動を促す道路整備とは

【安全性向上】

全国に先駆けて進行する高齢化に対応し、地域住民が安全に生活できる道路整備とは

【東日本大震災からの教訓】 災害時に機能する道路ネットワークとは

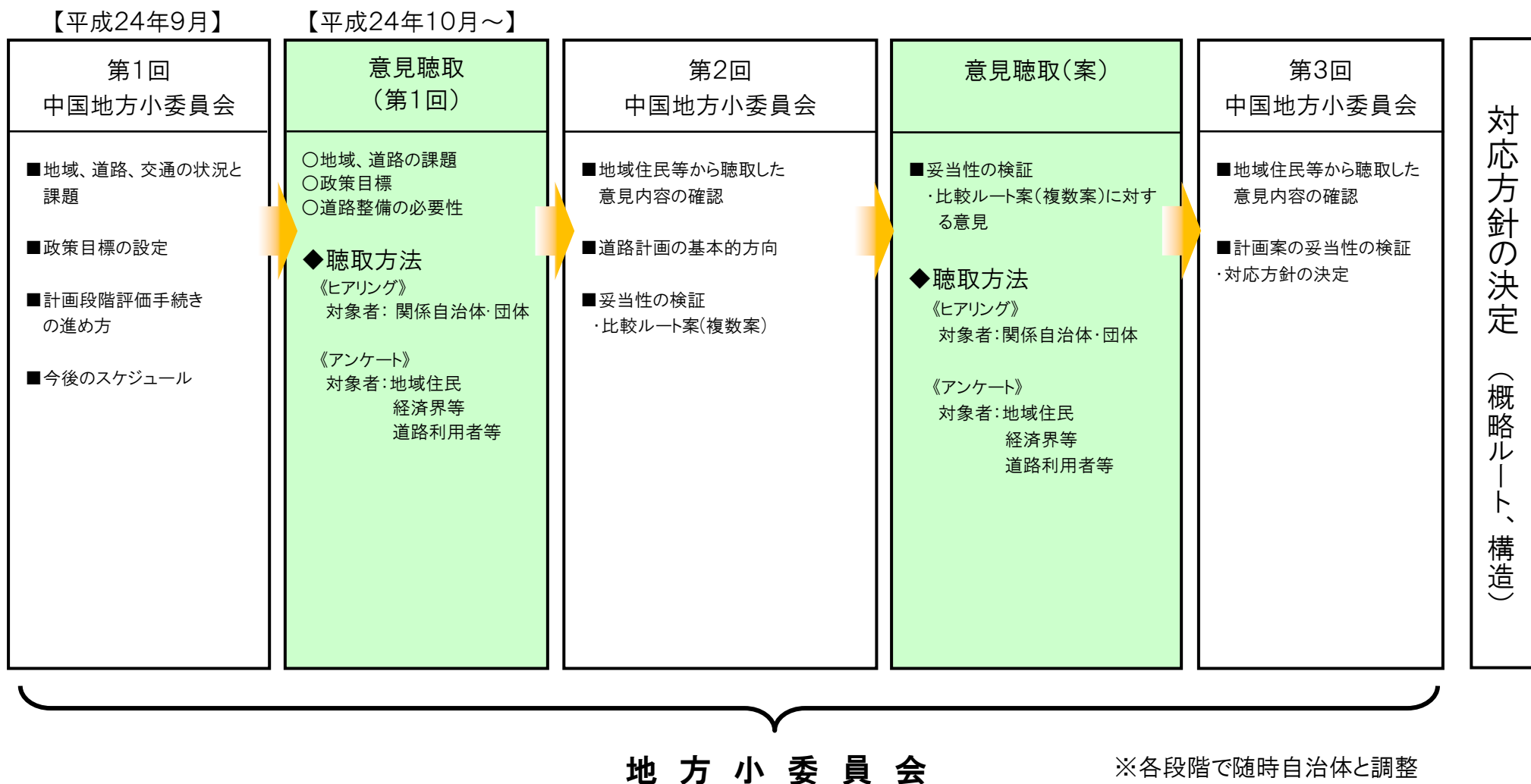
当該地域の高規格幹線道路の空白域の整備方針を検討
(既存の道路ストック活用の可能性も含め、複数の対策案を設定し検討)

5. 計画段階評価手続きの進め方

5. 計画段階評価手続きの進め方

1. 計画段階評価手続きの進め方、スケジュール(案)

地域住民や道路利用者の意見を聴きながら、道路計画[概略の計画案(複数案)]について検討を行う。



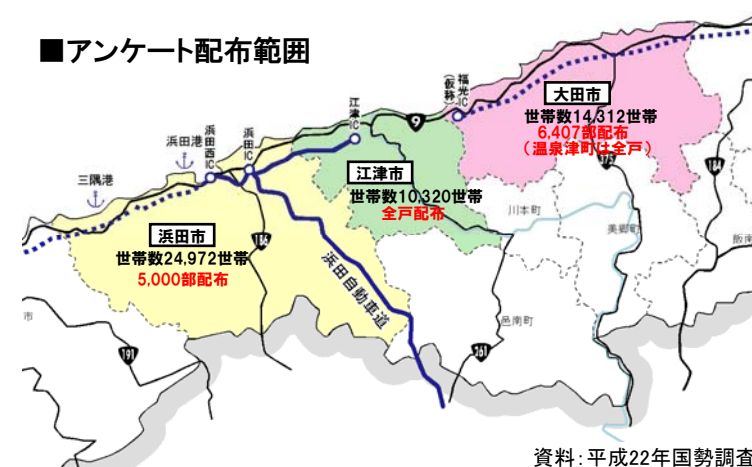
5. 計画段階評価手続きの進め方

2. 意見聴取の基本方針

課題・政策目標(案)・対策(案)に対する**意見を伺う**。

意見聴取の項目	把握する意見
現況の問題点・解決すべき課題	国道9号の問題点や解決すべき課題
政策目標	道路を計画する際の政策目標
道路整備の必要性	道路整備の必要性、計画する際の留意点

■アンケート配布範囲



3. 意見聴取の方法と対象者

対象者・実施方法		
ヒアリング	【関係自治体及び団体】 島根県・関係市・団体へ意見照会	
	自治体：島根県、大田市、江津市、浜田市、益田市等	
	各団体：トラック協会、商工会議所（3市）、消防署（3市）、警察、農協・漁協、浜田港振興会等	
アンケート	【地域住民】 関係市の住民へ郵送配布	
	約22,000部	
	大田市：温泉津町	全戸配布 1,407部
	江津市	全戸配布 10,320部
	大田市：大田町、朝山町、波根町、久手町、鳥井町、長久町、五十猛町、大屋町、仁摩町	無作為抽出 5,000部配布
	浜田市：旧浜田市	無作為抽出 5,000部配布
	【企業及び団体】 島根県内の関係企業・団体へ郵送配布	
	約4,000部	
	各企業：製造業、運輸・郵便業、卸売・小売業、宿泊・飲食サービス業、医療・福祉	従業員数10名以上の企業 約4,000部
	各団体：トラック協会、商工会議所（3市）、消防署（3市）、農協・漁協、浜田港振興会等	約10団体
	【道路利用者等】 島根県内の道の駅、観光施設に常設、WEB	
	5,000部	

5. 計画段階評価手続きの進め方

4. ヒアリングの調査項目と活用方針

ヒアリングの質問項目	ヒアリング結果の活用	備考
行政や業界への意見聴取	・ 課題、政策目標、道路整備の必要性に関し、行政や業界への意見聴取を行う。 ・ 行政又は業界との認識の整合性の確認をする。	共 通

5. アンケートの調査項目と活用方針

アンケートの質問項目	アンケート結果の活用	備考
現況の問題点・解決すべき課題	国道9号の現状について、回答者の認識を確認し、回答者の考える課題を把握する。	第1回
政策目標	道路を計画するにあたって、回答者の考える政策目標及びその優先度について把握する。	
道路整備の必要性	福光江津間における道路整備の必要性を把握する。	
比較ルート案（複数案）に対する意見	・ ルート選定にあたり、回答者が重要視する観点を把握する。 ・ インターチェンジの設置位置(配置計画)において、回答者が重要視する観点を把握する。	第2回
その他自由意見	その他、福光江津間に関する意見を幅広く聴取し、計画策定に反映する。	
回答者の属性、利用状況	回答結果の差異に対して各分類で整理し、分析する。	共 通

5. 計画段階評価手続きの進め方

5. アンケート案

■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

① 調査概要

➡ 本調査の趣旨・今後の進め方・調査対象箇所の提示

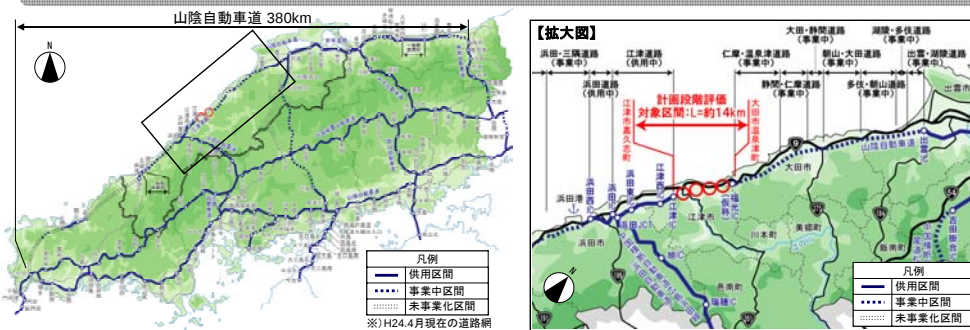
(案)

山陰自動車道(福光～江津)における 道路計画に関する第1回 アンケート調査

資料5

山陰自動車道は、鳥取県鳥取市～山口県美祢市までの延長約380kmの高規格幹線道路です。本調査は、山陰自動車道のうち、未事業化区間の福光～江津(延長約14km)の道路計画について、周辺地域の皆さまにご意見を伺うアンケートです。

アンケート調査は2回行い、第1回アンケート(本調査)では、地域の皆さまが日ごろ感じられている道路交通面での課題や課題を解消するための今後の方向性等について、ご意見をお聞かせします。また、第2回アンケートでは、地域の課題を解消するためにふさわしい対策案についてお聞きする予定です。本アンケート調査にご協力いただきますようお願いいたします。



② 国道9号(福光～江津)の現状

➡ 対象路線の沿線における道路課題および地域課題の提示

国道9号(福光～江津)の現状

道路ネットワークと交通状況

- 当区間は、高規格道路ネットワークにおいて松江市～益田市間で唯一事業化されていない区間です。
- 国道9号(大田市温泉津町～江津市嘉久志町間)の交通量は、約8,700～13,400台/日(大型車最大約2,700台/日)です。

災害危険箇所の状況

- 国道9号(大田市温泉津町～江津市嘉久志町間)には、土砂災害の危険箇所が多くあります。
- 昭和58年の豪雨では、洪水だけでなく多くの箇所で土砂災害が発生しました。

道路の線形

- 国道9号の大田市温泉津町～江津市嘉久志町間には、急な坂が6箇所、急なカーブが5箇所あります。
- 当区間は交通事故の致死率が、全国平均と比べ約7倍と高く、島根県平均と比べても約3倍と高いです。

洪水時浸水想定区域

- 江の川河口の東側周辺では、国道9号において、洪水時浸水が想定される区間があり、通行止めになる危険があります。



国土交通省 中国地方整備局 浜田河川国道事務所 島根県 浜田市 江津市 大田市

5. 計画段階評価手続きの進め方

5. アンケート案

■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

③ 質問事項

- ➡ ○現況の問題点・解消すべき課題
- 政策目標
- 道路整備の必要性 等を確認

質問1 国道9号(福光～江津間)に関する現在の問題点や解消すべき課題について

質問1-1 福光IC(仮称)～江津IC間の国道9号には、どのような交通課題があると思いますか？
下記の①～⑤に挙げる5つの課題すべてについて、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価してください。

- ①交通混雑の問題 ②災害に脆弱である ③通行止めの際、迂回路がない
- ④カーブや急な坂があるため走りにくく、時間がかかる ⑤交通事故の発生

質問1-2 質問1-1に示した5つの課題以外で、あなたが問題だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。

質問1-3 質問1-1や1-2に挙げられた課題を解消する上で、道路整備の必要性について、あなたのお考えをお聞きます。下記の①～⑤の中で、あなたのお考えに最も近いもの1つを選び、その理由を教えてください。

- ①必要だと思う ②やや必要だと思う ③どちらとも言えない ④あまり必要だと思わない
- ⑤必要だと思わない

質問2 地域の道路に求められる機能・役割について

質問2-1 あなたの住む地域には、どのような機能を持つ道路が重要だと思いますか？
下記の①～⑥に挙げる6つの機能すべてについて、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価してください。

- ①走りやすい道路 ②交通事故の少ない道路 ③災害に強く、迂回路として利用できる道路
- ④救急病院に早く行ける道路 ⑤港湾や生産拠点、消費地との連絡性を良くする道路
- ⑥観光や交流を促す道路

質問2-2 質問2-1に示した6つの機能以外で、あなたが重要だと思うものがあれば、ご自由にお書きください。

質問3 道路整備の必要性について

質問3 その他、道路整備の必要性や今後の方向性などについて、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

5. 計画段階評価手続きの進め方

5. アンケート案

■第1回アンケートにおける調査方法および質問内容

④ アンケート返信用はがき

■回答方法

- ・回答は、返信用はがきに記入し、切り取って郵便ポストに投函。

■締め切り

- ・平成24年〇月〇日まで。

(表面)

郵便はがき

料金受取人払郵便

〇〇郵便局 承認

0000

差出有効期間
平成24年〇月〇日
(切手不要)

島根県浜田市相生町3973

国土交通省 中国地方整備局
浜田河川国道事務所
〇〇〇課

〇〇〇 行

◆あなた自身のことについて【記入または該当する番号に○をつけてください】

住所 〒 島根県 市・郡 町

性別 ① 男性 ② 女性 年齢 歳

◆国道9号(福光～江津間)の利用状況について
【該当する番号に○をつけてください】

Q. 現在の国道9号(福光～江津間)の利用頻度を教えてください。

① 毎日 ② 週2～3回程度 ③ 月2～3回程度
→①②③を選ばれた方は《下段》の質問へ

④ ほとんど利用しない ⑤ 利用したことがない
→④⑤を選ばれた方は《裏面》の質問へ

Q. 国道9号(福光～江津間)の主な利用目的を教えてください。(いくつでも)

① 通勤 ② 通学 ③ 家事・買い物
④ 仕事 ⑤ 観光・レジャー
⑥ その他()

※)本アンケートでお答えいただいた意見および個人情報等は、他の目的で使用したり、第三者に使用させたりすることは一切いたしません

(裏面)

質問1-1 以下に示す5つの交通課題すべてについて、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価してください。【該当する箇所に○をつけてください】

交通課題	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない
①交通混雑の問題					
②災害に脆弱である					
③通行止めの際、迂回路がない					
④カーブや急な坂があるため走りにくく、 時間がかかる					
⑤交通事故の発生					

質問1-2 質問1-1に示した5つの課題以外で、あなたが問題だと思うことがあれば、ご自由にお書きください。【自由回答】

質問1-3 質問1-1や1-2に挙げられた課題を解消する上で、道路整備の必要性について、あなたのお考えをお聞きます。下記の①～⑤の中から1つ選び、その理由を教えてください。【該当する番号に○をつけてください】

① 必要だと思う ② やや必要だと思う ③ どちらとも言えない
④ あまり必要だと思わない ⑤ 必要だと思わない
(理由:)

質問2-1 あなたの住む地域には、どのような機能を持つ道路が重要だと思いますか？以下に示す6つの機能すべてについて、「そう思う」～「そう思わない」の5段階で評価してください。【該当する箇所に○をつけてください】

交通課題	そう思う	やや そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない
①走りやすい道路					
②交通事故の少ない道路					
③災害に強く迂回路として利用できる 道路					
④救急病院に早く行ける道路					
⑤港湾や生産拠点、消費地との連絡 性をよくする道路					
⑥観光や交流を促す道路					

質問2-2 質問2-1に示した6つの機能以外で、あなたが重要だと思うものがあれば、ご自由にお書きください。【自由回答】

質問3 その他、道路整備の必要性や今後の方向性などについて、ご意見がありましたら、ご自由にお書き下さい。【自由回答】

回答者属性
を確認